沖縄県立中部病院
内科研修プログラム

内科研修プログラム・・・・P. 1

専攻医研修マニュアル・・P. 102

指導医マニュアル・・・・P. 112

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』
『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』
『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにて
ご参照ください。

１.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1)本プログラムは，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院である沖縄県立中部病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムです（資料集－資料１；沖縄県立中部病院内科研修プログラム研修施設群一覧表を参照）。本プログラムにおいては、内科専門研修を経て沖縄県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練します。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の generality を獲得する場合や、内科領域 subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、柔軟性に富んだ研修を提供し、内科専門医として沖縄県全域を支える内科専門医の育成を行います。なお関連施設の特徴を生かしたサブコースも設定し、専攻医の様々なニーズに対応します。

2）初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（原則中部病院 2 年間＋連携 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準 2】

1）内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1）本プログラムは，沖縄県立中部病院を基幹施設として，沖縄県立北部病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院、を連携施設とし、さらに離島診療所を特別連携施設として、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。さらに琉球大学病院、沖縄県立南部医療センターと基幹施設同士の連携を組んでいます。さらに県外施設としては杏林大学医学部、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターとも基幹施設同士の連携を組んでいます。さらに豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明

病院とも連携しております。研修期間は原則、中部病院 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります（地域のニーズにより一部変更の可能性があります。歴史的に沖縄県立中部病院は、連携施設である北部、宮古、八重山病院との深い連携のもと、これら地域中核病院の診療を担う人材を育成し、派遣する機能を担ってきました。これらの連携施設は、地理的な制限もあり、まさに内科専門医の理想像である全人的な内科診療の実践が、より高いレベルで求められます。そのため、本プログラムの各病院では“Subspecialist である前に良き Generalist であれ”を共通の合言葉に総合内科（GIM）的教育を十分に行った上で Subspecialty 教育へと発展させていくことを基本方針としています。内科各 Subspeciality 科の指導医は常にこのことを意識して日々の研修医教育を行っています（資料集－資料 2：プログラム概念図を参照）。過去に多くの内科専門医を輩出しています（平成 28 年 1 月時点で、沖縄県の総合内科専門医 199 名中 60 名が当院初期、または後期研修経験者です）。いずれも、連携施設での経験を踏まえ、総合内科医としての視点を持った内科専門医として活躍しています。今年度からは県外施設との連携も充実させていく予定です。

2）沖縄県立中部病院内科専門研修プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3）基幹施設である沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また琉球大学病院では、一般市中病院では経験できないような特殊な疾患、複雑な症例も経験できます。

4）基幹施設である沖縄県立中部病院を中心とした施設における 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（資料集－資料 3；専攻医登録システムイメージ図（内科学会資料を改変）を参照）に登録できます。（当院で初期研修から、後期研修を継続する場合は、初期研修中に主担当医として経験する症例 80 例の登録が十分に可能な臨床経験を積めます）。そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（資料集－資料 4：疾患群症例病歴要約到達目標を参照）。

5）連携病院である沖縄県北部、離島の中核総合病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 または 3 年目の 1 年間（場合によりプラス 1 年目に 1.5 か月），立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します。サブコースとして、北部病院コースでは、北部病院 2 年、中部病院 1 年のコースもあります）。また琉球大学医学部、沖縄県立南部医療センター、杏林大学医学部、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターでの短期ローテーションもできます（3 ヶ月程度をめやすに調整中です。専攻医の数などにより、希望にそえない場合もあります）。

6）専攻医 3 年修了時点で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（資料集－資料 4 を参照）。

２.専門研修の目標および成果【整備基準 3】

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが，

1）地域医療における内科領域の診療（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対し、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理、予防医学、日常診療を実践します。
2）内科系救急医療：内科系急性、救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な内科系救急医療を実践します。
3）病院での総合内科（Generality）診療：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識、洞察力を持ち、総合内科診療を実践します。
4）総合内科的視点を持った subspecialty 診療：病院での内科系 subspecialty を受け持つ中で、総合内科(Generalist)の視点から subspecialist としての診療を実践します。

このように医師個々のキャリア形成の過程、医療環境、地域のニーズにより、求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たし、幅広い分野に対応できる内科専門医を多く輩出することにあります。
沖縄県立中部病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして，沖縄県中部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。
また，希望者は（内科専攻医修了要件を十分に満たす場合）、Subspecialty 領域の研修を 1 年未満経験することも可能であり、将来の subspecialty 専門医の取得の準備期間にもなります。当プログラムは内科学会が推奨するすべての医師像（（資料集－資料 5：専門研修後の成果（内科学会資料より）を参照））に対応できます。

３.内科専攻医研修計画および目標[整備指針：4,5,8-12,13-16,30,42,46,47]

1）研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた 3 年間の専門研修（専攻医研修）で育成されます。

2）到達目標【整備基準 8～10】（資料集－資料 4 を参照）
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

3）専門研修の 3 年間は総合内科および各 subspecialty 科おいて、求められる基本的診察能力、態度、資質と「内科研修カリキュラム項目表」に基づいて内科専門医に求められる知識、技能の習得目標を設定し、終了の終わりに達成度を評価します（「技術・技能評価手帳」参照）。

具体的な達成度はのちの項目で示します。

○専門研修（専攻医）１年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）２年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します。
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）３年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します（資料集－資料 3 を参照）。
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。

専門研修修了には病歴要約 29 症例の受理と、70 疾患群中、少なくとも 56 疾患群 160 症例以上の経験が必要です。

なお初期研修で主担当医として経験した 80 例（病歴要約 14 例）については、プログラム統括責任者が適切な症例であると認めた場合、上記後期研修医期間中の経験症例に上乗せすることが可能です。また上記は、あくまでも目安であり、2 年目終了時には十分に修了要件を満たせる可能性もあります。

４.内科専攻医研修コース【整備基準 16, 25, 31, 32】

下記のようなコースがあります。

１）通常コース：
専門研修（専攻医）3 年間のうち、基幹施設である沖縄県立中部病院で 2 年間、連携施設（北部、宮古、八重山病院）で 1 年の専門研修を行います。専攻医数、連携施設の状況に合わせて、最大 1.5 か月の短期研修を 1 年目に行う場合があります（追加資料 2 参照）。中部病院内での各専科のローテーション期間は 4-8 週を基本単位としています。専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）、各連携施設のニーズなどを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。なお，研修達成度によっては中部病院の 2 年間のうち最大 1 年間 Subspecialty 研修も可能です（個々人の症例充足度により異なります）。連携施設での研修を 2 年目に行い、3 年目に中部病院での研修を行う場合もあります（後述 3 参照）。9 名を予定しています。

	通常コース
1 年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む） および 1.5 ヶ月連携施設
2 年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む）、 場合により専科研修
3 年目	連携施設

２）連携施設優先コース（北部病院）
連携施設（北部病院）での研修を 2 年間、中部病院での研修を 1 年間行うコースです。
1 名を予定しております。

	連携施設（北部病院）優先コース
1 年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む）
2 年目	連携施設（北部病院）
3 年目	連携施設（北部病院）

3）場合により、通常コースの一環として、1 年目を中部病院および 2 年目をへき地離島連携施設で研修し、研修修了要件を十分満たし、かつ本人が希望する場合には 3 年目は、１年間中部病院で、消化器、循環器、腎臓など将来の subspecialty に特化した研修を行うコースも設定できます。将来の subspecilty 専門医取得にそなえ、4-5 年目(PGY6-7)の各 subspecialty 専門医研修に連続して移行できるコースです。4-5 年目の subspecialty 研修をひきつづき、中部病院で行うかどうか選択できます（subspecialty 専門医制度はまだ制度設計が十分になされておらず、不確定）。また、2 年目に専科研修を受けることもできます（最大 1 年）。

さらに専攻医 2 年目で、希望者には琉球大学、沖縄県立南部医療センター、杏林大学、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターで短期（3 か月単位想定、通年で 4 名予定、その他専門外来研修などの研修ができます。専攻医の数、病院の状況に希望に沿えない場合もあります）。また希望者は離島診療所（特別連携）で３ヶ月の地域医療、総合内科的経験を積めます（主に２年目を想定、本人が希望する場合、連携施設の１年とは別枠として）。
1 年目の修了時または、2 年目の途中で専攻医の希望、研修の到達程度、各連携施設の状況などを総合的に判断して決まります。

４）内科各専科専門医研修について
当院は、現在下記学会の内科専科専門医研修施設です。
今後開始される新制度下の専科研修および内科専攻医研修中の並行研修についても、今後柔軟に対応予定です。

日本感染症学会研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本神経学会専門医制度准教育施設

5.募集専攻医数【整備基準 27,31】

下記 1)～11)により，沖縄県立病院群内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 10 名（通常コース 9 名、北部病院優先コース 1 名）とします。

1）沖縄県立中部病院専攻医は現在 3 学年併せて 12 名で 1 学年 5～8 名の実績があります。

2）剖検体数は、2021 年度 8 体、2022 年度 1 体、2023 年度 8 体、2024 年度 4 体、2025 年度 6 体です。

表. 沖縄県立中部病院診療科別診療実績および連携施設診療実績

2025 年実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数年）
消化器内科	942	6,527
循環器内科	1,025	12,429
代謝内科	–	–
内分泌内科	–	–
腎臓内科	556	7,384
感染症内科	532	1,205
呼吸器内科	628	2,805
アレルギー科	–	–
神経内科	13	2,519
血液内科（血液・腫瘍内科）	674	6,950
膠原病内科（リウマチ膠原病科）	8	4,640
救急　救急への一泊入院 救急から病棟に入院	438 600	8,631
総合内科	1,168	16,165

4）代謝，内分泌疾患は主に腎臓内科を中心に、各専科で診療しています。血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，専門外来患者診療を含め，1 学年 10 名に対し十分な症例を経験可能です。

5）13 の subspecialty 領域すべての研修が可能でこのうち、9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上（合計 20 名、24 資格注：新指導医有資格者のみカウント、その他合計 30 資格）在籍しています（資料集－資料 6；指導医リスト（新指導医資格による）を参照）

6）1 学年 10 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

7）専攻医 2 または 3 年目に研修する連携施設には，離島僻地地域基幹病院 3 施設があり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。

8）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は十分に達成可能です。

9）総合内科は中部病院のゲートウェイとして、多くの新患を受け入れており、研修医は当院での研修全期間を通じて週一回総合内科の外来をこなしつつ、各 subspecialty 科での新患および入院担当した患者の一部を自分の外来で診療します。

10）総合内科的問題を抱える多くの患者は、各 subspecialty の入院グループに振り分けられて治療しています。各 subspecialty 科入院患者の約 10-20%は、総合内科的疾患を有する患者で

す。各 subspecialty に総合内科専門医が在籍しており（計 20 名）、専門診療と総合内科的診療が並行して行われます。そのため各 subspecialty をローテーション中も、科横断的に総合内科的研修が可能です。また当院の入院患者の約 60%は救急室経由でありさまざまなプロブレムを抱えた患者も、多く存在しますので、各 subspecialty 科を回っているときも総合内科的研修が、十分につめるように工夫されています。

11)研修手帳 A レベルでの経験を要求される代表的疾患群の数（中部病院のみの資料です）を資料として添付します（資料集－別表１；中部病院におけるＡレベルを要する症例数（H26.4～H27.3））。各連携施設（県立病院群）での症例数は、各病院とも、この数字の約 1/3～1/2 程度で、総数としては、十分な症例が教育資源として提供できます。

６．臨床研修の内容

１）臨床現場での学習【整備基準 13】

①内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

②定期的に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンス（資料集－資料 7；沖縄県立中部病院内科研修プログラム群カンファレンスリストを参照）を通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます。また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③総合内科外来（初診を含む）または Subspecialty 診療科外来を少なくても週 1 回，3 年間担当医として経験を積みます。

④救命救急センターの内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。

⑤当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑥必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します。希望により、また研修進捗（知識、技術、技能の習得）状況により、3 年間の専攻医期間中 1 年間の subspecialty 研修（循環器内科、消化器内科など）ができる場合があります。この場合 subspecialty の専門医取得が早まる可能性もあります（あくまで今後の subspecialty 学会の専門医指針によります）。

２）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します。

①定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
②医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（2024 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回、2025 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 1 回、医療安全 1 回）
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
③CPC（基幹施設 2025 年度実積 3 回）
④研修施設群合同カンファレンス（2018 年度開催実績 2 回、2019 年度：年 2 回開催）
⑤地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中部合同カンファレンス、沖縄ハートなど、詳細は資料集－資料 7 及び資料 8；院外で定期的に開催される医師主導の勉強会で当院専科スタッフお

よび研修医が参加、発表する可能性があるものを参照）
⑥JMECC 受講（基幹施設： 2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）
※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに 1 回受講します。
⑦内科系学術集会
⑧各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
⑨国内外招聘講師による講義
など

3）自己学習【整備基準 15】
「研修カリキュラム項目表」にある疾患について、以下のような材料を使って自己学習します。
①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
②日本内科学会雑誌にある MCQ
③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など
④卒後研修事務所図書館（24 時間オープン）：雑誌、書籍、オンラインジャーナル、
uptodate などが利用可能です。

7.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】
日本専門医機構・日本内科学会の設定するスケジュールに沿って募集を行います。

【問い合わせ先】沖縄県立中部臨床研修センター
E-mail:och_kenshu@hosp.pref.okinawa.jp　　HP: https://chubuweb.hosp.pref.okinawa.jp/unihawaii/
沖縄県立中部病院内科研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います。

8.研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（資料集－資料 3 を参照）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
・専攻医による逆評価を入力して記録します。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。当院には、論文、教科書の執筆経験があるスタッフが多数在籍しており、病歴要約の指導も手厚く行う予定です。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

9.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】
1）沖縄県立中部病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要（資料集-資料 7 を参照）は，施設ごとに実績を記載します。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である沖縄県立中部病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に

周知し，出席を促します。また施設群全体でのカンファレンスを年 2 回開催する予定です。
2）中部病院におけるカンファレンスの一部は離島に配信され、視聴が可能です。

１０.リサーチマインドの養成・学術活動に関する研修計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

沖縄県立中部病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，以下の学問的姿勢を基本とします。

①患者から学ぶという姿勢を基本とする。
②科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence based medicine）。
③最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤症例報告を通じて深い洞察力を磨く、といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。
⑥初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
⑦後輩専攻医の指導を行う。
⑧メディカルスタッフを尊重し，指導を行う。
などを通じて，内科専攻医としての教育活動を行います。

学会参加および発表に関しては
①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を中心に、沖縄県医学会、各専科領域院外カンファレンスなどにも積極的に参加発表します。
②経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います。可能な限り、症例報告として誌上発表を目指します。
③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④機会があれば、指導医とともに海外の学会に参加、発表することもあります。
⑤3 年間の専攻医期間中に、学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います。
⑥過去 2 年間の当院からの学会発表のうち研修医が筆頭演者の数は、2013 年度 60 件中 24 件、2014 年度は 71 件中 31 件でした。

上記のような学問的姿勢と、学術活動を通して、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようなリサーチマインドを涵養します。

１１．医師に必要な倫理性・社会性の研修計画【整備基準 7】

沖縄県立中部病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である沖縄県立中部病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

①患者とのコミュニケーション能力
②患者中心の医療の実践
③患者から学ぶ姿勢
④自己省察の姿勢
⑤医の倫理への配慮
⑥医療安全への配慮
⑦公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧地域医療保健活動への参画
⑨他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩後輩医師への指導
※教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

１２．連携施設の構成要件、地理的分布および地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 25, 26, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。沖縄県立中部病院内科専門研修施設群は沖縄県中部、北部、宮古、八重山医療圏の中核病院で構成されています。歴史的に県立中部病院は、連携施設である北部、宮古、八重山病院との深い連携のもと、これら地域中核病院の診療を担う人材を育成し、派遣する機能を担ってきました。

沖縄県立中部病院は、沖縄本島中部地区うるま市にあります。沖縄県立南部医療センターは南風原町（那覇市）にあり、また琉球大学病院は本島中部西原町にあります。沖縄県立北部病院は本島北部の名護市にあります。両病院は中部病院から自動車で約 40 分の距離です。沖縄県立宮古、八重山病院はそれぞれ、那覇市から空路（ジェット機）で 45-50 分の距離になります。各県立病院および離島診療所は、遠隔医療システム、インターネットなどで綿密に連携をとりあっており、たとえば中部病院での講義がリアルタイムで配信されます（資料集-資料 9；連携施設所在地を参照）。
沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。上記歴史的背景にも配慮し、連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，北部地域および離島中核病院である沖縄県立北部病院，沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院、および離島診療所（人口 1000 名以上）で構成しています。また南部医療センターとは基幹病院どうしの連携を組んでいます。これらの地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します（資料集-資料 10；沖縄県立中部病院内科研修プログラム群経験可能症例症を参照）。

また琉球大学と当院は、開学以来学生のポリクリ、クリニカルクラークシップ、初期研修医の１年ずつを中部病院と琉球大学でたすき掛けで行うプログラムなどを通じ深い関係を保ってきました。琉球大学病院においては、中部病院および離島へき地中核病院では、経験できないような稀有な症例や複雑な症例を研修する機会が得られます（資料集-資料 10 を参照）。また杏林大学医学部（当院 OB の指導医在籍）、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研

究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターとも連携してまいります。

各連携施設に常駐する内科専門医、指導医、研修委員会（当院 OB が数多く在籍）と中部病院研修管理委員会が密に連絡を取り、プログラムの質を担保いたします。

１３.地域医療に関する研修計画【整備基準 25,26、28,29】

沖縄県立中部病院内科施設群専門研修では，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。特に、北部、宮古、八重山病院では、地域医療の第一線を担う貴重な戦力として、多くの症例を主担当医として経験でき、大きく成長することができます。また各連携施設には中部病院ＯＢが数多く在籍しており、密に連携しています。中部病院で開催されるカンファレンスの一部は連携施設にも配信され、またインターネットなどを通じ、いつでも症例についての相談が可能です。

１４.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について、責任をもって管理する「沖縄県立中部病院内科研修プログラム管理委員会」を中部病院、各連携病院のメンバー（資料集－資料 11；プログラム管理委員会リストを参照）で構成し、プログラム統括責任者の下で、連携施設を含む本プログラム全体の管理を行います。

(1) 沖縄県立中部病院研修センターの役割（資料集－資料 12；プログラム管理委員会・研修センター・研修委員会組織図を参照）

- 沖縄県立中部病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局としての役割をはたします。
- 沖縄県立中部内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（8 月と 2 月予定，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します。
- 沖縄県立中部病院臨床研修センターは，メディカルスタッフ（担当指導医，Subspecialty 上級医，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員）による 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月予定，必要に応じて臨時に）行い、社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います。専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，中部病院あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに沖縄県立中部病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し，以下（ｉ～vi）の修了を確認します。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録します（資料集-資料 4 を参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（資料集-資料 3 を参照）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 沖縄県立中部病院専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に沖縄県立中部内科専門医研修プログラム管

理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。なお，「沖縄県立中部病院内科研修プログラム専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.72）と「沖縄県立中部病院内科研修プログラム指導医マニュアル」【整備基準 45】（P.82）と別に示します。

１５．専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

1）沖縄県立中部内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（医療部長：喜舎場朝雄），プログラム管理者（医療部長兼内科部長：尾原晴雄）、内科研修委員長（内科医長：須藤航），事務局代表者，初期研修管理委員長（腎臓内科部長：照屋周造）、連携施設担当委員で構成されます。（資料集－資料 11 を参照）。沖縄県立中部内科専門研修管理委員会の事務局を，沖縄県立中部病院臨床研修センターにおきます。プログラム管理委員会の下に、中部病院内科専門研修委員会（資料集－資料 13；研修委員会リストを参照）を設置し、プログラム運営の実務を行います（資料集－資料 12 を参照）。
ii）沖縄県立中部内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する沖縄県立中部内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

①前年度の診療実績
a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)１か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③前年度の学術活動
a)学会発表，b)論文発表

④施設状況
a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催。

⑤Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

１６.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

１７.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
専門研修（専攻医）1 年目，2 年目は基幹施設である沖縄県立中部病院の就業規則に，専門研修（専攻医）3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業規則に基づき，就業します。

基幹施設である沖縄県立中部の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。専門研修施設群の各研修施設の状況については，各施設概要を参照して下さい。また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります。

１８.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき，沖縄県立中部内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医，施設の内科研修委員会，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，沖縄県立中部内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して沖縄県立中部内科専門研修プログラムを評価します。

·担当指導医，各施設の内科研修委員会，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応
沖縄県立中部臨床研修センターと沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会は，沖縄県立中部病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて沖縄県立中部内科専門研修プログラムの改良を行います。
沖縄県立中部内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

１９.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて沖縄県立中部内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから沖縄県立中部内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。他の領域から沖縄県立中部内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに沖縄県立中部内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。
疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します。

1）専門研修基幹施設

沖縄県立中部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 24 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：喜舎場朝雄（医療部長），プログラム管理者：尾原晴雄（医療部長兼内科部長）、内科研修委員会委員長：須藤航）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログラムの共同でプログラム運営します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回、2025 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 1 回、医療安全 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（別紙参照）を定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設の専門研修では，電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体、2024 年度実績 4 体、2025 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ･研究倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 2 回※迅速審査 2025 年度実績 35 件）し、臨床研究内容の審査などをしています。 ･治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 4 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 11 演題、その他内科系学会にて計 5 演題（研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 6 件）発表をしています。
指導責任者	喜舎場朝雄 【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり，歴史的に、連携施設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、総合内科的研修を中心とした研修を行い、多くの総合内科専門医を輩出してきました（沖縄県の総合内科専門医の約 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です）。「Specialist である前に良き generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適した病院です。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名，認定内科医 24 名 内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会 3 名，日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者 5,279 名（1 ヶ月平均）入院患者 533 名（1 ヶ月平均）内科のみの人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本病理学会病理専門医制度研修認定施設(B) 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼働施設 卒後臨床研修評価機構認定

2）専門研修連携施設

1. 沖縄県立北部病院

認定基準 【整備基準基幹 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています。月額 1 万５,000 円程度 1 LDK ・沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は４名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び 救急の分野で定常的に専門研修が可能な病例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年会で計 1 演題以上の学会発表を 予定しています。 ・2024 年度実績２演題
指導責任者	指導責任者：星野　慎一 【内科専攻医へのメッセージ】・当院は沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1－3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることがいずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診れる力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会総合内科専門医　５名 ・循環器専門門医　1 名
外来・入院患者数	・外来患者（2,469）入院患者（224 名）ともに 1 ヶ月平均（内科のみの人数）
経験できる疾患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の病例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の病例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設

2. 沖縄県立宮古病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・沖縄県立宮古病院任期付常勤医師として労務環境が保障されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時 間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、血液の分野においては時々症例を診療することができます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	責任者名（砂川　惇司） コメント ・当院は人口 5 万 5 千人を抱えた離島中核病院です。内科研修病院としては子供から高齢者まで幅広い症例を診療することができ、また、島内唯一の 24 時間開かれた全次対応救急病院であり、救急及び緊急処置を必要とする症例も多く経験することができます。 離島医療を通して 医師の社会的な役割を感じ取ることのできる研修病院です。
指導医数 （常勤医）内科系	日本内科学会指導医５名　、日本内科学会総合内科専門医５名 ※2026 年 4 月現在
外来・入院患者数 （2025 年度）	外来患者（1,899 名）、　入院患者（283 名） ※2026 年 4 月現在
経験できる疾患群	・13 領域のうち、13 領域 68 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 ・日本内科学会教育関連病院 ・日本専門医機構総合診療専門研修プログラム基幹病院 ・日本プライマリ・ケア連合学会　新・家庭医療専門医プログラム基幹病院

3. 沖縄県立八重山病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・インターネット環境が整っていて、UpToDate・Clinical Key が自由に使えます。 ・中部病院のハワイ大学図書室から無料（今年度未確定）文献コピーの取り寄せができます。 ・おおむね年３−４回の学会出張旅費を支給します。 ・過重労働のチェックをしており、個別に対策しています。 ・女性医師専用の更衣室・シャワーが準備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 6 名在籍しています。 ・管理職以外は研修医を含めて全医師が同じ部屋に席があり相談・指導が受けやすい環境です。 ・毎朝の内科ミーティングで全内科医師が出席して症例検討・入院患者紹介をしています。 ・毎水曜日は内科・外科合同画像カンファレンスをしています。 ・精神科を含めて各科対診体制は整っており、迅速な対応・指導が受けられます。 ・基本的に初療にかかわった症例の担当医になります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・地域に一つの総合病院で、内科領域の疾患については偏りなく経験することができ、特に初診・救急の初療から診断・治療・時には看取りまで一貫して経験することができます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会地方会には年間 1-2 件の発表をしており、多種の学会での発表を奨励しています。
指導責任者	吉嶺　厚生
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会総合内科専門医 5 名　　・日本呼吸器学会専門医 2 名 ・日本循環器病学会循環器専門医 4 名　・日本消化器学会専門医 1 名 ・日本腎臓学会腎臓専門医 0 名
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者（3009 名）入院患者（276 名）※ともに 1 ヶ月平均（内科の人数）
経験できる疾患群	内科全領域の１次・２次医療患者を偏りなく経験でき、総合内科医研修に求められる症例の経験をすることができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	内科急性期医療全般に加えて、慢性疾患・超高齢者・緩和ケア・終末期医療を経験できる。地域施設との連携・終末期在宅医療・離島医療・在宅医療について直接担当することができる。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	なし

4. 琉球大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 労働基準法を順守し、琉球大学の「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は産業医とカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 21 名在籍しています（下記）。 ・朝カンファレンス・チーム回診 朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。 ・総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。 ・症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。 ・診療手技セミナー： 例：シミュレーションセンターにおいて、各種シミュレータを用いたスキルトレーニング。または実際の機器を用いて診療スキルの実践的なトレーニング等を行います。 ・ＣＰＣ：死亡・剖検例、難病･稀少症例についての病理診断を検討します。 ・関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。 ・抄読会・研究報告会：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し､意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。 ・Summary discussion：指導医と discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。 ・学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します。後輩を指導することは自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のモーニングセミナーやイブニングセミナーが開催されており、それを聴講し、学習します。受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。
指導責任者	崎間　洋邦

指導医数 （常勤医）	認定内科医 23 名、総合内科専門医 21 名、消化器病学会 5 名、肝臓学会 2 名、循環器学会 2 名、内分泌学会 2 名、腎臓学会 2 名、糖尿病学会 2 名、呼吸器学会 9 名、血液学会 2 名、神経学会 4 名、アレルギー学会 2 名、リウマチ学会 1 名、感染症学会 4 名、老年医学会 0 名、救急医学会 0 名
外来・入院 患者数	外来患者　1,130.1 名（1 日平均)、入院患者　466.9 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある救急をのぞく 12 領域、66 疾患群の症例を経験することができます。琉球大学病院では 3 診療科（第一内科、第二内科、第三内科）が複数領域を担当しています。
経験できる技術・技能	基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。
経験できる地域医療・診療連携	原則として、琉球大学病院の 3 診療科（第一内科、第二内科、第三内科）をそれぞれ 4 ヶ月ずつ、そして地域医療の経験や症例数が充足していない領域などを連携施設で研修します。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本高血圧学会専門医制度に基づく研修施設 I 日本神経学会専門医制度における教育施設 経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育施設

5. 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 19 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：林 成峰（消化器内科部長）、内科専門研修管理委員長：大城克彦（循環器内科副部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度院内開催：医療安全 2 回、医療倫理 1 回、感染対策 1 回 ／ 他院 WEB：医療安全 1 回、医療倫理 1 回、感染対策 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·専門研修に必要な内科剖検数（2024 年度実績 6 体、2025 年度 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度 定期委員会 12 回、本会 4 回）しています。 ·治験管理センターを設置し、定期的に開催（2025 年度 定期委員会 12 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	林 成峰　（内科専門研修プログラム統括責任者）
指導医数 （常勤医）	内科指導医 19 名　　日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名　日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 3 名　　日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名　日本リウマチ学会専門医 3 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　　62,530 名（内科系診療科のみ 年間 延べ患者数）　2025 年度 入院患者　　50,544 名（内科系診療科のみ 年間 延べ患者数）　2025 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医関連施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会認定専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本病理学会病理専門医研修登録施設 認定輸血検査技師制度協議会認定指定施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 関連 10 学会構成　胸部ステントグラフト実施施設 関連 10 学会構成　腹部ステントグラフト実施施設 浅大腿動脈ステンドグラフト実施施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本感染症学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター 地域包括医療ケア認定施設

6. 杏林大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·杏林大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が杏林大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·施設近隣に当院と提携している保育所があり、病児保育の利用も可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・総合診療専門医を含む 19 領域の全てにおいて、専攻医が専門医を取得するための研修指導・支援体制（専門研修プログラムの整備、指導医の確保、研修記録作成などの事務的作業の支援）を整えています。 ・個々の専攻医の状況や希望に応じて、必ずしも専門研修プログラムの内容に縛られない柔軟な対応（研修カリキュラム制への移行など）をしています。また、19 領域の「基本専門医」取得後も、さらに上級の専門資格（サブスペシャルティの専門医）の取得を支援しています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器内科，循環器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓リウマチ膠原病内科，呼吸器内科，血液内科，神経内科，脳卒中科，高齢医学，腫瘍内科，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 15 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・国内では，地方会や総会で，積極的に学会発表をしています. また海外の学会でも、学会発表を行います.
指導責任者	呼吸器内科 主任教授　石井晴之 【内科専攻医へのメッセージ】 ・当院は人口 420 万人超の東京西部・三多摩地区において唯一の医学部です. その大学病院として高度先進医療を担う役割があり、高度救命救急センター（ 3 次救急医療）、総合周産期母子医療センター、がんセンター、 脳卒中センター、透析センター、もの忘れセンター等を設けています. また地域の 1・2 次救急も重要視しており、救急初期診療チームが 24 時間対応チームとして活動しています. つまり、当大学病院において内科系各診療分野の豊富な症例経験を積んでもらうこと、そして東京近郊の千葉・埼玉・神奈川県、また東京都西部医療圏（多摩，武蔵野）との連携プログラムを組んでいるので、地域医療における総合内科診療のレベル向上を目的に研修してもらいます. その上で、内科系プログラムを通して内科専門医だけではなく内科領域 Subspecialty 専門医取得も視野に入れた教育体制を設置しています. 複数の内科研修コースを設けていますので、希望にあわせたコースで内科専門医取得の研修を行って下さい.
指導医数 （常勤医）	73 名
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	内科系外来患者 59,340 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者 22,440 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症経験することがで

	きます.
経験できる技術・技能	本プログラムは,専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間） （基幹施設 1.5 年間＋連携施設 1.5 年間），東京都地域枠へき地対応プログラムに豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.
経験できる地域医療・診療連携	連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために, 原則として 1 年間あるいは 1.5 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本リウマチ学会リウマチ専門研修認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定施設

7. 宮崎市郡医師会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·宮崎市郡医師会病院医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルヘルスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ·ハラスメント委員会が宮崎市郡医師会に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 14 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（宮崎心臓病研究会、地域連携で心不全を考える会、心エコー研究会、宮崎健康フォーラム　2025 年度実績 14 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（開催実績無し）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会及び臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 4 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2023 年度 10 例、2024 年度 8 例、2025 年度 7 例）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	宮崎市郡医師会病院　副院長　柴田　剛徳 宮崎市郡医師会病院は宮崎県宮崎東諸県医療圏における急性期基幹病院として近隣の病院、医院、救急隊と密に連携をとり、宮崎市民から求められる最善の医療を心がけています。また指導医のもと主担当医として、患者一人一人に対して入院から退院までの適切な診療だけでなく、患者の社会的背景をも包括する全人的医療と患者に思いやりを持った医療を目指し、実践しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　14 名、日本循環器学会循環器専門医　18 名、日本不整脈心電学会専門医　3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医　2 名、日本リウマチ学会専門医　1 名、日本感染症学会専門医　1 名、日本救急医学会救急科専門医　3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医　2 名、日本集

	中治療医学会専門医　3 名、米国集中治療専門医　1 名、　米国麻酔科専門医　1 名　など
外来・入院患者数（年間）2025 年度	外来患者 2980 名（1 ヶ月平均）　入院患者 6044 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本高血圧専門医研修認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

8. 株式会社麻生　飯塚病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN，Wi-Fi）があります. ・飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります. 医務室には産業医および保健師が常駐しています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 40 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます. 米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です. 将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います.
指導医数 （常勤医） 2026 年度実績	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数 ［2025 度実績］	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設 など

9. 手稲渓仁会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･**エラー！ 参照元が見つかりません。**常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署「まめやか相談室」があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署「コンプライアンス室」があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています。 ･近接地に病院保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 26 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会（施設内において研修する専攻医の研修を管理する）との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･CPC を定期的に開催し（2025 年度実績 5 回）、専攻医に受講を義務付けます。 ･地域参加型のカンファレンス（地域医師会症例検討会,地域救急医療勉強会）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 6 体，2025 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置しています。 ･治験に適切に対応する部署（臨床研究・治験推進室）があります。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	星　哲哉
指導医数 （常勤医）	26 名
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来患者 21,296 名、入院患者数 20,797 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医制度研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医制度認定研修施設 日本家庭医療学会後期研修プログラム認定施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設 日本血液学会専門医制度研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医認定医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医制度循環器研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器科） 日本アレルギー学会準認定教育施設（小児科） 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本透析医学会専門医制度認定教育施設 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本臨床細胞学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医制度専門医指定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本航空医療学会認定施設

10. 前橋赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者 兼 プログラム管理者：渡邊 俊樹（総合内科部長）総合内科専門医かつ指導医）；専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図っています。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度 実績 18 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度 実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、前橋地域救急医療合同カンファレンス、前橋市内科医会循環器研究会、前橋市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催：実績 1 回、受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科プログラム管理委員会および研修管理課が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修することができます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 7 体、2023 年度実績 10 体、2024 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度 実績 4 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	渡邊　俊樹（総合内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の内科系診療科は、総合内科、脳神経内科、心臓血管内科、呼吸器内科、消化器内科、リウマチ・腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科、血液内科と専門診療科が充実しており、急性期医療を担っていると同時に、地域支援病院や前橋医療圏の地域がん診療連携拠点病院として多くの紹介患者を診察しております。さらに当院は群馬県医療の中で救急医療や災害医療の中心的な存在でもあるため、内科救急疾患も数多く診察しております。内科専門医を目指す研修として、各診療科の

	専門医を目指す研修として、幅広い症例を経験すると同時に専門性の高い充実した研修が可能です。ぜひ私たちと一緒に質の高い研修をおくりましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　9 名 日本内科学会総合内科専門医　16 名 日本消化器病学会消化器専門医　6 名 日本循環器学会循環器専門医　5 名 日本糖尿病学会専門医　2 名 日本腎臓病学会専門医　3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　3 名 日本神経学会神経内科専門医　2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）　2 名 日本リウマチ学会専門医　1 名 日本透析医学会透析専門医　1 名 日本感染症学会専門医　2 名 日本救急医学会救急科専門医　14 名　　ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者　9,991 名（全科 1 ヶ月平均/実数）（2024 年度実績） 入院患者　1,682 名（全科 1 ヶ月平均/実数）（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　　など

11. 湘南鎌倉総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・669 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・「JCI」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「JMIP」（外国人患者受入れに関する認定制度）認証病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット・Wi-Fi 環境がある。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。 ・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。 ・敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。 ※「JCI」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951 年設立）の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証· 証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。 ※「JMIP」とは・・・Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを享受できる ように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平 な立場で評価する認証制度である。 ※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、ワークライフバランスを病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものである。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 44 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター／内科専門研修センターを設置する。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回、受講者 10 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。 ・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 ・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを通じて月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより、指導医がその施設での研修指導を行う。

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 13 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 24 回　内訳；徳洲会全体 12 回、院内 12 回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2025年度実績12回）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置されCPC（cell processing center)が用意され今後の展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2025 年度実績 11 演題）をしている。
指導責任者	小泉一也 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医） ［2026 年 4 月現在］	日本内科学会指導医 44 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 9 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門 5 医名、日本血液学会血液専門医名 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医数 1 名
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者　570,657 名　新入院患者　26,142 名（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病

	診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設、 日本リウマチ学会教育施設、 日本透析医学会専門医制度認定施設、 日本神経学会教育関連施設、 日本救急医学会救急科専門医認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本病態栄養学会認定施設、 日本急性血液浄化学会認定施設、 日本アフェレシス学会認定施設、 日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本認知症学会認定教育施設、 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本胆道学会認定指導施設、 日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸療法医学会専門医研修施設

12. 白河厚生総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·白河厚生総合病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·病院衛生委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，当直室が整備されています. ·院内保育所が併殺されており、敷地内には市の病児保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.（年 2 回（6、12 月）開催） ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しております. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な内科剖検（2025 年度実績 4 体，2024 年度実績 1 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上を目標として学会発表(2025 年度実績 4 演題)をしています.
指導責任者	岡本 裕正 【内科専攻医へのメッセージ】 白河厚生総合病院は，福島県県南医療圏に密接した中心的な急性期病院であり，common disease を初め，豊富な専門的疾患が集まります．専攻医は地域医療に密着しながら主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	24 名
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来患者 17,122 名（1 ヶ月平均）　　入院患者 271 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設

13. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が九州大学に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医が（2025 年度）151 名在籍しています（下記）. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医の倫理 1 回／採用時必須、医療安全　2 回／年、感染対策　2 回／年）し，専攻医に受講（e-learning 講習）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，リウマチ,膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　23 演題）をしています.
指導責任者	桑原　綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 　九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全・倫理を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 151 名，日本内科学会総合内科専門医 121 名 日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本循環器学会循環器専門医 28 名, 日本内分泌学会専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 17 名, 日本腎臓病学会専門医 21 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名, 日本血液学会血液専門医 18 名，日本神経学会神経内科専門医 16 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 12 名, 日本感染症学会専門医 16 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名, 老年医学会 2 名，肝臓学会 10 名，消化器内視鏡学会 26 名, 臨床腫瘍学会 12 名　他

外来・入院患者数	内科系外来患者 16,940 名（1 ヶ月平均延数）内科系入院患者 11,068 名（1 か月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

14. 東京大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度における基幹型研修病院です。 ・専門研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京大学医学部附属病院として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対応する部署があります。 ・敷地内にキャンパス内保育施設があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・内科系学会で年間４００件以上の学会発表をしています。そのうち、臨床研修医と内科専攻医が筆頭演者の発表が７０件ほどあります。
指導責任者	藤尾 圭志（統括責任者・内科部門長）
指導医数	161 人（非常勤含む）
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者数：　239,032　人/年 入院患者数：　**9,483**　人/年
経験できる疾患群	2024 年度以降に専門研修を開始した新基準適用の専攻医は、3 年で研修を修了予定の場合、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を確実に経験できる研修とするとともに、指導医による形成的な指導を通じて，29 症例の病歴要約を作成します。 旧基準適用の専攻医は、3 年での内科専門研修修了時に、通算で 56 疾患群，160 症例以上を確実に経験できる研修とし、29 症例の病歴要約を作成します。
経験できる技術・技能	（3 年間の場合） ○専攻医 1 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。 ○専攻医 2 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。 ○専攻医 3 年目 疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。 ○専門研修期間を通じて，初診を含む外来（通算で，1 回／週を 6 ヶ月以上） と当直を経験します。 ○臨床現場を離れた学習として，内科領域の救急，最新の病態・治療法について専攻医対象のセミナーが開催されており，それに参加し学習します。JMECC の履修は必須です。内科系学術集会への参加，発表も推奨されます。また，内科系学会が行っているセミナーのオンデマンドの配信等を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜視聴ができるよう設備を準備します。また，日本内科学会のセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。定期的に指導医と専攻医が面談を行い，自己学習結果を指導医が評価しフィードバック

	を行います。
経験できる地域医療・診療連携	連携施設である地域の中核となる総合病院での研修を通じ、内科専門医に求められる役割を実践することが可能です。また、連携先の医療レベル維持にも貢献できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学血液研修施設、日本神経学会教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、日本心身医学会認定研修診療施設　など

15. 豊田地域医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・藤田医科大学系列病院（３病院）等の初期研修の関連施設で、地域医療を担当しています。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・公益財団法人豊田地域医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 6 名在籍しています。 ・専門研修員会を設置し、施設内での研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療倫理１回、医療安全２回、感染対策２回、ハラスメント対策１回）しています。現在は、オンラインでの講習会となっています。 ・基幹施設で行う CPC に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域４分野（総合内科、消化器、循環器、呼吸器）で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要なカンファレンス室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床倫理カンファレンスを行っています。 ・EBM カンファレンスを行っています。
指導責任者	野口善令
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会認定内科医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本消化器病学会消化器内科専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー指導医 2 名、日本老年医学会老年科指導医 2 名
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来患者数 87,080 名、入院患者 2,546 名、救急医療件数 24,432 件、訪問診療 22,796 件
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 4 領域・疾患軍の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価長にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	・日本老年学会認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ・病院総合認定施設

16. 国立がん研究センター中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課労務係）があります。 ·各種ハラスメント委員会が国立研究開発法人に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科学会指導医は 32 名在籍しています。（2026 年 3 月現在） ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2024 年度　多地点合同メディカル・カンファレンス 17 回）を定期的に開催し、受講のための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·内科系学会で多数の発表を行っています。（2024 年度実績 245 件） ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	堀之内　秀仁 【内科専攻医へのメッセージ】 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　32 名、日本内科学会総合内科専門医　45 名（2026 年 3 月現在）
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	新入院患者数(延数)19,554 名、総外来患者(延数)379,849 名(2024 年度)
経験できる疾患群	1.研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2.研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1.日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2.技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携

療・診療連携	を経験できます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本内科学会 日本緩和医療学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本小児血液・がん学会 日本消化管学会 日本消化器内視鏡学会 日本カプセル内視鏡学会 日本消化器病学会 日本総合病院精神医学会 日本胆道学会 日本超音波医学会 日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会 など

17. 国立がん研究センター東病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名以上在籍している（下記） ・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 （2024 年度実績：医療倫理 5 回、医療安全 2 回、感染対策講習会 2 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、循環器、呼吸器、血液、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	内藤 陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいがん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経験することにより、内科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連 携により、全人的な医療従事者として活躍できるための支援・指導を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、内科専門医 23 名、認定内科医 25 名 日本臨床腫瘍学会指導医 16 名、がん薬物療法専門医 13 名 日本肝臓学会指導医 1 名、肝臓専門医 7 名 日本血液学会指導医 5 名、血液専門医 5 名 日本呼吸器学会指導医 3 名、呼吸器専門医 7 名 日本消化器病学会指導医 8 名、消化器病専門医 28 名 ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者 28,472 名（1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 11,988 名（1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患軍港目標）にある、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の

	分野で主要疾患を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　など

18. 今村総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·今村総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント委員会が今村総合病院に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·企業主導型保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 10 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています。
指導責任者	西垂水　和隆 【内科専攻医へのメッセージ】 総合内科では屋根瓦の中心となって救急・病棟・集中治療・感染症・膠原病診療について研修、指導を行う。その他血液内科・脳神経内科・消化器科・循環器科などの専門性の高い診療科での研修も可能。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者 12,926 名（1 ヶ月平均） 入院患者 10,702 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本臨床神経生理学会認定施設準教育施設（筋電図・神経伝導分野） 日本臨床細胞学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設　など

19. 熊本赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ハラスメント相談員を配置し、適切に対応しています。 ・医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織としてＭＱＣセンターがあります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、医師室、仮眠室、シャワー室、リラクゼーションルーム、当直室が整備されています。 ・院内に保育所と病児病後児保育室を完備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会；基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研修推進室を設置します。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス研究会 熊本東部地区（内科系持ち回り）内科 Grand Rounds （月 1 回） ＊院内 Grands Rounds を開業医の先生方にも開放する ＊時に院外講師を招き、KUMAMOTO GIM などの企画 菊池 Medical クロスカンファレンス 年 2～3 回 阿蘇 Medicla クロスカンファレンス 年 1～2 回 ＊内科専攻医が経験した症例の検討およびスタッフの解説・討論の方式 日本医師会生涯教育講座（病診連携体験学習） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ･特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の熊本赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 3 体、2023 年度 10 体、2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催し、受託研究を行っています。また、臨床研究の事務的補助を行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

内科統括責任者

加島雅之

【内科専攻医へのメッセージ】

熊本赤十字病院はＥＲ型救命救急センターを中心とした医療を展開する急性期病院です。100 床を有する、総合内科では臓器別にとらわれることなく、内科診療技能養成に重点を置き、総合内科医の育成を目指します。

主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

また、当院の特徴であるＥＲ型救急の経験を積み、地域住民によく見られる内科疾患から複数の症例を抱えたＩＣＵ管理の必要な重症例まで、幅広く対応できることを目標とします。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 23 名・日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器病専門医 9 名・日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本腎臓学会腎臓専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 25 名 ほか
外来・入院患者数	総外来患者（実数）：230, 474 名 総入院患者（実数）：15, 959 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療を中心に、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本救急医学会指導医指定施設 日本胆道学会指導施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高気圧環境・潜水医学会認定病院 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設

20. 公益財団法人がん研究会有明病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（相談窓口）があります. ·ハラスメントに対応する委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室, 当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 16 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（各複数回開催また研修開始 時は必須）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,5 の分野で定常的に専門研修が可能な 症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を 予定しています.
指導責任者	指導責任者：高野 利実 【内科専攻医へのメッセージ】 がん研究会有明病院は国内最大規模のがん専門病院であり、若手医師の教育・育成にも力を入れています。内科専門研修の連携施設として、呼吸器内科、消化器化学療法科、乳腺内科、総合腫瘍科、血液腫瘍科等が研修を担当します。ご希望があれば、複数の診療科をローテーションすることも可能です。豊富ながん症例の診療にあたりながら、がんの診断、治療、支持療法など、幅広い経験を積み、がん診療の技術や考え方を習得できるように指導します。専門医療だけでなく、内科専門医として、患者の幸せを目指し、全人的医療を実践できるような指導も心掛けています。腫瘍内科専門医を目指す方はもちろん、そうでない方も、最先端のがん医療に触れる貴重な機会ですので、是非当院での研修をご検討ください。お待ちしております！
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名 ， 日本内科学会総合内科専門医 50 名　　ほか
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来患者数 424,210 人（年間延患者数）　入院患者数 18,611 人（年間新患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域，15 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

21. 聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 105 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・指導医が 105 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度は 18 体）を行っています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域および多職種参加型の 9 内科合同カンファレンスを定期的に参画し、common disease や様々な症例を学ぶ機会を設けています。 ・CPC を定期的に開催し､内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています。 ・JMECC を主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会（月 1 回）を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副統括責任者、研修委員長 循環器内科　教授　出雲　昌樹 【内科専攻医へのメッセージ】 東京と隣接した地域に位置する、地域密着型特定機能病院です。2023 年 1 月よりに新病院が開院しました。年間 6000 台以上の救急車の応需があり、三次急までの様々な救急疾患を経験することができます。
指導医数 （常勤医）	105 名
外来・入院患者数 （年間）2023 年度	外来患者延数 578,989 名　入院患者延数 315,723 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携を経験できます。

学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門）、日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設、日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度研修認定施設Ａ、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本核医学会専門医教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設（小児科/ 皮膚科/ ﾘｳﾏﾁ・膠原病・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科）、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本臨床薬理学会専門医制度研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本脈管学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定、日本感染症学会研修施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会　認定研修施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証、日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設、日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設、日本脳神経血管内治療学会　研修施設、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本てんかん学会認定研修施設

22. 帝京大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・内科専門研修基幹施設としての基準を満たしており、専攻医への環境は整っています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 56 名在籍しています。 ・内科専門研修基幹施設としての基準を満たしており、専攻医への環境は整っています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会認定教育病院です。 ・学会や研究会における発表や、症例報告などの論文作成が行えます。
指導責任者	盛田　幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 「内科」には、消化器内科、呼吸器・アレルギー内科、血液内科、腎臓内科、内分泌代謝・糖尿病内科、膠原病内科、感染症内科が含まれます。他の内科系の標榜診療科として「循環器内科」「腫瘍内科」「脳神経内科」があります。病棟では、腎臓内科、内分泌代謝・糖尿病内科、膠原病内科、感染症内科の医師が属し、さらに他分野の内科の医師も協力して成り立っている「総合内科病棟」の他に、消化器内科、呼吸器・アレルギー内科、血液内科、循環器内科、腫瘍内科、脳神経内科が各々の専門病棟を有しています。入院・外来を問わず、各内科グループ間の風通しがよく、お互いに診療上の疑問点などを相談しやすい環境です。大学病院ならではの稀少・難治疾患の症例に遭遇する機会がある一方、当地のみならず近隣医療圏の救急症例も積極的に受け入れているため、地域医療の現場を経験することも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 41 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本内分泌学会内分泌専門医 4 名、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医（内科）8 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	内科外来患者：9,413 名（2025 年度の平均 1 か月間でのデータ） 内科入院患者：755 名（2025 年度の平均 1 か月間でのデータ）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある全領域の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	大学病院ならではの稀少・難治疾患の症例に遭遇する機会がある一方で、当地のみならず近隣医療圏の救急症例も積極的に受け入れているため、地域医療の現場を経験することも可能です。

学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本消化器病学会認定教育施設、日本循環器学会認定教育施設、日本呼吸器学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本血液学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会認定教育施設、日本神経学会認定教育施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会認定教育施設、日本内科学会認定教育病院　など

23. ハートライフ病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会（セクシャルハラスメントパワーハラスメント等）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性専用の更衣室（休憩室）、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に法人運営の保育施設があります。また、隣接する同法人クリニック内にある院内保育所で病児保育も可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 9 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2025 年度実績：4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績：救急症例検討会 4 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では，症例指導医とハートライフ病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中はハートライフ病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門医の常勤がいない内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染疾患は救急病院であることから少なからず経験することが出来ます。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2025 年度実績：3 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会学術総会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績：3 回）をしています。また、専攻医が国内・国外の学会に参加、発表する機会があります。
指導責任者	秋元　芳典 【内科専攻医へのメッセージ】 ハートライフ病院は 308 床の急性期病院であり、幅広い内科疾患を経験することができます。中でも消化器、循環器疾患については症例数、指導医ともに充実しています。消化器領域では肝臓領域の患者数が多く、肝がんの症例に対するラジオ波焼灼療法などは沖縄でも多くの症例を行っています。循環器では ECMO を含め、救急と共に急性期症例の経験をすることができます。また、2025 年度より総合診療専門研修プログラムを立ち上げ、総合内科を中心に内科を幅広く学ぶ教育にも力を入れています。内科の基礎から応用まで研修できるシステムで先生方を迎えたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名

	日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数（年間）2025 年度	外来患者 2,600 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 3,519 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	2 次救急指定病院としての急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、地域医療支援病院としての病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本臨床栄養代謝学会ＮＳＴ稼働施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病院総合診療医学会認定施設

24. 愛媛県立中央病院

認定基準 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（主任部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体、2023 年度実績 8 体、2022 年度実績 10 体を行っています。
認定基準 ４）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024年度実績9回）しています。
指導責任者	副院長（消化器内科） 二宮 朋之 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医数 13、日本循環器学会循環器専門医数 8、 日本内分泌学会専門医数 2、日本糖尿病学会専門医数 5、日本腎臓病学会専門医数 3、 日本呼吸器学会呼吸器専門医数 7、日本血液学会血液専門医数 8、日本神経学会神経内科専門医数 5、日本アレルギー学会専門医（内科）数 2、日本リウマチ学会専門医数 0、日本肝臓学会専門医 8、臨床腫瘍学会専門医 2、消化器内視鏡学会専門医 13、日本感染症学会専門医数 2、日本老年学会専門医数 3、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 25,754 名（1 ヶ月平均） 入院患者 15,217 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本感染症学会連携研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設、 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定　総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設、日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施認定施設など

25.埼玉医科大学総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・内科専門医制度 基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・埼玉医科大学総合医療センターとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に大学保育施設があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 44 名在籍しており研修委員会が設置されています。研修委員会は沖縄県立中部病院の内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医には受講を義務付け時間的余裕を与えます。 ・基幹施設の主幹する研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます(会場は埼玉医科大学病院となります)
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で専攻医ひとりあたり計 1 演題以上の学会発表をしています。 患者から学ぶという姿勢を基本とし、また evidence based medicine を基盤として広く知識を学習し、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追及するため、国内外の学会における症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。
指導責任者	前嶋 明人 【内科専攻医へメッセージ】 埼玉医科大学総合医療センターは、三次専門の高度救命救急センターと総合周産期母子医療センターを併設し、大学病院として高度な医療を実践する一方で、地域密着型の病院として一次・二次の救急患者を多く受け入れており、先進医療から Common Disease までさまざまな症例を経験することが可能です。 当院内科は 10 の専門領域(消化器、内分泌・糖尿病、血液、リウマチ・膠原病、心臓、呼吸器、腎・高血圧、神経、感染症、総合内科)からなり、そのほとんどの内科専門領域を網羅しています。また、内科専門研修カリキュラムに示す疾患群のほとんどをカバーしています。研修もこれら全ての科において実習が可能であり、指導医も十分な人数、十分な指導体制のもと内科領域全般の研修ができます。各内科においては、その科の代表的疾患の診断と治療・処置は

	必ず体験させるプログラムです。特に総合内科医に必要な救急医療は全国でも有数な高度救命救急センターの中において十分に体験できます。大学病院でありながら医療センターの形式をとっているので先端医療を行う大学病院の機能と、医療センターとしての一般的な疾患を含むあらゆる疾患について診療ができる機能を備えております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医：44 人
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来：159,687 人／年、入院：90,271 人／年
経験できる疾患群	13 領域、70 疾患群の全てを経験可能です。
経験できる技術・技能	各内科においては、その科の代表的疾患の診断と治療・処置は必ず体験できます。
経験できる地域医療・診療連携	三次救急病院としての高度な医療、幅広い疾患を経験することが出来ます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本脳神経学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

26. 大阪府済生会吹田病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院です。 ・また協力型臨床研修病院として、多くの研修医を受け入れしています。 ・当院では 3 領域（内科・麻酔科・産婦人科）の専門研修プログラムを有し、上記領域以外にも連携施設として多くの専攻医の受け入れを行っています。 ・研修に必要な文献や情報検索が可能な複数のオンラインジャーナル等を整備、また開院日・休診日に関わらず、図書室は 24 時間利用可能です。 ・医局等では wifi 環境を整備しており、インターネットも利用できます。 ・医局等では wifi 環境を整備しており、インターネットも利用できます。 ・体調不良時等に利用可能な休養室、院内保育所も整備しています。 ・メンタルストレスに適切に対処するための部署として、人権ハラスメント相談室があり、内部通報制度に基づき、ヘルプライン相談窓口を設置しています。 ・対面やオンラインで臨床心理士によるカウンセリングを受けることも可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室やシャワー室等も整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、研修管理委員長等）にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター内に事務局を配置しています。 ・以下を定期的に開催・受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2024 年度実績 8 回） ●CPC カンファレンス（2023 年度実績 4 回、2024 年度実績 4 回） ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・JMECC 講習会については修了年度までの受講を保証します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経の 7 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表しています。 （2024 年度実績 7 演題） ・学会・研修会での発表や参加時は事前申請制で諸費用を病院で負担します。
指導責任者	竹中　英昭（副院長・臨床研修センター長・プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪府済生会吹田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設と共同で内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、救急からの入院も含め、多くの症例を経験できます。入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括するチーム医療を実践できる内科専門医を養成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医：17 名 日本内科学会総合内科専門医：12 名 日本消化器病学会消化器専門医数：6 名 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医：5 名 日本肝臓学会肝臓専門医数：3 名 日本循環器学会循環器専門医数：3 名

	日本腎臓学会腎臓専門医数：1 名 日本糖尿病学会専門医数：2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医数：4 名 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医：4 名 日本神経学会神経内科専門医数：1 名 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医：2 名
外来・入院患者数	外来患者数（1 ヶ月平均 360.6 名）　新入院患者数（1 ヶ月平均 381.4 名）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にる 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準認定教育施設 日本病態栄養学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会認定教育施設認定 日本腎臓学会研修認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

27. 高松赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・日本赤十字社規定に基づく高松赤十字病院職員就業規則に準じ労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する担当（公認心理師）がいます. ・ハラスメント相談員が設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ワーク・ライフ・バランスサポートセンターが設置されています. ・体調不良児保育も可能な院内保育所の利用が可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 27 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全 3 回，感染対策 2 回，医療倫理 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績：全体 5 回（内科 3 回））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（地域連携談話会，香川県内科医会血液部会症例検討会，香川血液疾患チーム医療研究会，香川県消化器談話会，香川肺がん診断会，香川県内科医会糖尿病談話会，香川県内科医会呼吸器疾患談話会，香川県内科医会循環器部会，香川高血圧研究会他）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（第 8 回：2024 年 12 月 22 日開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します. ・特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の高松赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績：全体 14 体（内科 9 体），2023 年度実績：全体 12 体（内科 7 体），2022 年度実績：全体 18 体（内科 14 体），2021 年度実績：全体 12 体（内科 9 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室とインターネット環境が整備されています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に臨床治験審査委員会を開催（2024 年度実績 9 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 7 演題）をしています.

指導責任者	柴峠　光成 【内科専攻医へのメッセージ】 　高松赤十字病院は，香川県の中心的な急性期・高度急性期病院であり，県内外にある連携施設・特別連携施設とともに内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　27 名，日本内科学会総合内科専門医　21 名 日本消化器病学会専門医　7 名，日本肝臓学会専門医　2 名 日本循環器学会専門医　11 名，日本内分泌学会専門医　1 名 日本腎臓学会専門医　　2 名，日本糖尿病学会専門医　2 名 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　4 名 日本神経学会専門医　1 名，日本リウマチ学会専門医　2 名 ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者数（延数）269,590 人/年（内科 81,279 人/年） 入院患者数（実数）12,493 人/年（内科 5,265 人/年）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定指定施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 制度認証施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科【カテゴリー：1】 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度関連施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、専門施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 植込型補助人工心臓管理施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本東洋医学会研修施設　など

28. 聖路加国際病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境の整備、適切な労務環境の保障、メンタルストレスに適切に対処する部署の整備、ハラスメント委員会の整備、女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室等の配慮、敷地内外を問わず保育施設等の利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	専門研修プログラム管理委員会と専門研修委員会が組織されています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会、研修施設群合同カンファレンス、CPC（年間約 30 例）、地域参加型のカンファレンス、JMECC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けています。 施設実地調査に対応可能な体制があります。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	内科領域 13 の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数があり、70 疾患群のほぼ全疾患群の研修が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会や地方会で年間約 10 演題の学会発表をしています。
指導責任者	長浜　正彦
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名・総合内科専門医 32 名，内科専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本心血管インターベンション治療学会専門医 5 名， 日本消化器病学会指導医 3 名・専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名・専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器指導医 3 名・専門医 7 名， 日本腎臓学会指導医 3 名・専門医 6 名， 日本透析医学会指導医 2 名・専門医 6 名， 日本救急医学会指導医 3 名・救急科専門医 12 名， 日本集中治療医学会専門医 13 名， 日本リウマチ学会指導医 4 名，専門医 1 名 日本感染症学会指導医 2 名・専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 7 名　　ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者数（延べ患者数）：142,501 名、入院患者数（実数）：4,167 名
経験できる疾患群	本プログラムでは、「研修手帳（疾患群項目表）」にある内科領域の経験すべき 70 疾患群のほとんど全てを経験します。
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」に示されている手技を経験するたびに登録評価システムに登録し、担当指導医が承認して到達度を評価します。
経験できる地域医療・診療連携	基幹施設の聖路加国際病院では、臓器別の subspecialty 分野に支えられた高度な急性期医療を経験し、地域の病診・病病連携の中核としての役割を経験します。 （特別）連携施設での地域医療研修では、コモンディジーズの診療だけでなく、中核病院との病病連携や診療所との病診連携、地域包括ケア、在宅医療を経験し、各医療機関

	が地域においてどのような役割を果たしているかを学びます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本緩和医療学会連携施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本糖尿病学会研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設など

29. 東海大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·東海大学医学部付属病院専攻医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署(伊勢原健康推進室、人事課(心の相談室))があります。 ·ハラスメント委員会が東海大学に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 62 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2025 年度実績 1 演題)をしています。
導責任者	永田栄一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学医学部付属病院は、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関でもあります。大学病院ならではの高度専門医療と内科全般的医療を同時に経験でき、また、脳卒中センター、肝疾患センター、認知症疾患医療センターなど各疾患に対するセンターを併設しており、地域に根付いた診療をしております。専攻医の多様な希望を満し得るプログラムを準備しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 59 名、日本内科学会総合内科専門医 62 名、 日本消化器病学会専門医 13 名、日本肝臓学会専門医 6 名、 日本循環器学会専門医 19 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 6 名、日本腎臓学会腎臓専門医 7 名、 日本呼吸器学会専門医 11 名、日本血液学会専門医 11 名、 日本神経学会専門医 8 名、日本アレルギー学会専門医(内科)5 名、 日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名 日本集中治療医学会専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 6 名、 日本消化管学会専門医 5 名、日本老年医学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 (年間) 2025 年度	2025 年度 全科外来患者数 54,515 名(月平均延数) 2025 年度 全科入院患者数 24、096 名(月平均延数)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会専門研修施設 日本救急医学会指導医・専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 臨床遺伝専門医認定研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心エコー図学会心エコー図専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設、ステントグラフト実施施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本頭痛学会認定教育施設、日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本胆道学会指導施設、日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設、日本ヘリコバクター学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定研修施設 日本脳卒中学会研修教育施設、日本認知症学会教育認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本造血・免疫細胞療法学会認定施設

30. 洛和会丸太町病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	心地よく：1 人で患者を抱え込む必要性がありません。皆で楽しく勉強できます。 救急患者をそのまま連続して入院診療することで申し送りも不要でスムーズでストレスのない診療が可能となります。一方で専門医による緊急心カテ、緊急内視鏡の 24 時間対応があるので安心です。どんなコンサルトでも自信を持って心地よく受け入れられる医師を目指してもらいます。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	広く：当院は病床数　150　床の病院にもかかわらず、年間　3,097　件（2022 年度）の 救急搬送件数があります。そのなかで救急・総合診療科は、一次~三次救急まで重症度に 関わらず、ほとんどの内科領域の疾患を扱っています。また救急からの内科的疾患の 8 割が救急・総合診療科に入院しています。救急から集中治療、一般入院、外来まで同じ上 級医により一貫した指導を受けながら診療が行えます。最近ではグループホームを含めた在宅診療にも力を入れています。自分に枠を作らず、様々な環境で目の前の患者さんにしっかり対応しようとする/できる医師を目指してもらいます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	洛和会丸太町病院は 150 床という規模であるが救急受け入れが多く、多様な疾患を経験 することができる。標榜科が少ないため、救急総合診療科が多様な疾患をカバーしている。また洛和会系列のグループホームの往診や外来診療なども含めて多様なセッティングで診療を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	深く：救急診療から入院診療、外来診療まで全てにおいてチーム体制で濃厚なフィードバックを全例受けられるシステムかが整っています。EBM　の実践に加え臨床研究や論文 執筆にも携わります。上記の広さだけでなく、深みを持った診療をしていただきます。
指導責任者	上田　剛士 【内科専攻医へのメッセージ】 洛和会丸太町病院総合診療専門研修プログラム（以下本研修 PG）は病棟、救急、外来、診療所、在宅診療と場所を問わず、全人的医療を展開し患者に寄り添うことのできる総合診療専門医の養成を目的としています。 洛和会丸太町病院 救急総合診療科の理念は「広く、深く、心地よく」です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　7 名 日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本循環器学会専門医　4 名 日本消化器病学会消化器専門医・指導医　1 名 日本消化器内視鏡学会指導医　1 名 日本肝臓学会肝臓専門医　1 名 プライマリ・ケア学会認定医・指導医　2 名 日本救急医学会専門医　5 名
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者数　9,009　名（年間新患者数）、93,408　名（年間延べ外来数） 入院患者数　4,872　名（年間新入院数）、47,397　名（年間延べ入院数）
経験できる疾患群	150 床の病院ではあるが、救急受け入れが多い。標榜科が少ないため、多様な疾患を経験できる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医	また洛和会系列のグループホームの往診や外来診療なども含めて多様なセッティングで

療・診療連携	診療を行っている。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

31. 石切生喜病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・医師臨床研修制度に基づく臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・医療法人藤井会石切生喜病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近隣にある医療法人藤井会附属保育園が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 25 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大阪東臨床医学会、地域連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しており、70 疾患群のうち大部分の疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会・同地方会および内科系学会にて多数の学会発表を行っています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表し、また症例や臨床成績を和文・英文論文の筆頭著者として執筆する機会があります。
指導責任者	堀尾　武史 【内科専攻医へのメッセージ】 石切生喜病院は東大阪市東部にあり、この地域の急性期医療の中心的な役割を担う急性期総合病院です。また、現在大阪府がん診療拠点病院にも指定されています。基幹施設の内科専門研修プログラムに則り、連携施設として専門研修を行い、全人的医療ができ地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 25 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器病専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名

	日本アレルギー学会専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	年間入院患者実数（内科系）：3.517 名 年間外来延べ患者数（内科系）：122,214 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。循環器、呼吸器、消化器、腎臓領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携等を経験できます。
学会認定施設（内科系）	専門研修プログラム（内科領域）基幹病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会指導連携施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設 日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）

32. 泉大津急性期メディカルセンター病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •常勤医師（専攻医）として労務環境が保障されています. •労働安全衛生委員会（メンタル、ストレス、ハラスメント含む）が整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように、病児保育，休憩室，更衣室，当直室が整備されています. •女性医師は病院近傍の院内保育所が利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医が 18 名在籍しています（下記）. •内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，血液，膠原病，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 10 演題）を予定しています.
指導責任者	田口　晴之 （泉大津急性期メディカルセンター院長　心臓血管センター長　内科専門研修統括責任者）【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪府の泉州北部にあり，急性期一般病棟 300 床（ICU8 床，HCU12 床、SCU6 床）を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています． ※市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導 18 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 4 名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,929 名（1 ヶ月平均）　入院患者 281.5 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設 非血縁者間骨髄移植・採取認定病院 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定病院　など

33. 東住吉森本病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です．卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·東住吉森本病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が東住吉森本病院に整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 8 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（基幹施設 2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：大阪市南部地区医療連携講演会、東住吉ハートカンファレンス、心腎連携講演会、 内視鏡セミナー、緩和ケア研修など；（2024 年度実績 6 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を 与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、救急で定常的に 専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうち大部分の疾患群（少なくとも 50 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 2 例）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 1 演題以上の学会発表をしています. ·専攻医が国内外の学会に参加・発表し、症例や臨床研究を和文・英文で論文筆頭者として執筆する機会があります.
指導責任者	仲川浩一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 東住吉森本病院は，大阪市南部医療圏の中心的な急性期病院です．また地域医療支援病院、大阪府がん診療拠点病院にも指定されています．同一医療圏・近隣の堺医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献でき、全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名

	日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本心血管インターベンション学会専門医 1 名 日本超音波医学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 2,731 名（1 ヶ月平均）　入院患者 287 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 など

34.大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ·ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 90 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 11 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績　9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績　12 演題）をしています。
指導責任者	繪本　正憲（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 90 名，日本内科学会総合内科専門医 79 名， 日本消化器病学会消化器専門医 28 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 7 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名，日本血液学会血液専門医 14 名， 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 22 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）4 名，日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 9 名， 日本老年学会老年病専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名，ほか
外来・入院患者数 （年間）	外来患者 148,884 名（2025 年度　延べ数） 入院患者　80,445 名（2025 年度　延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携な

療・診療連携	ども経験できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設など

35. 岡山大学

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度期間型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·休憩室、更衣室、仮眠室、当直室等が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています。
指導責任者	指導責任者：和田　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 　岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます。」です。本院は高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において、全国でもっとも進んだ施設であるとともに、中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動も行っています。当院の内科研修では、ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、リサーチマインドを持って医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 71 名 日本内科学会専門医 68 名 日本消化器内視鏡学会専門医 18 名 日本消化器内視鏡学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 63 名 日本循環器学会循環器専門医 15 名 日本内分泌学会専門医・指導医 11 名

	日本腎臓学会専門医・指導医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 13 名 日本血液学会血液専門医・指導医 9 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 8 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 13 名 日本糖尿病学会専門医 16 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,688.8 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月 入院患者 19,943.1 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹施設 日本リウマチ学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

36.仙台厚生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署（総務部）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 21 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存の医学教育支援室と連携し活動します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 43 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催、インストラクター2 名在籍、院内開催実績 9 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。 ·特別連携施設（永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	松田　知己 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本内科学会認定内科医 30 名、内科専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 19 名、日本消化器

	病学会消化器病専門医 15 名、日本肝臓内科肝臓専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数（年間）2023 年度	年間入院患者数（延べ）141,502 名、年間外来患者数（延べ）137,511 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本消化器がん検診学会 認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本感染症学会 研修施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設（連携施設） 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本超音波医学会 認定超音波専門医制度研修施設 日本不整脈心電学会 認定不整脈専門医研修施設 日本カプセル内視鏡学会 指導施設 日本肝臓学会 認定施設 日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本内科学会・日本専門医機構 専門研修プログラム認定 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設 日本成人先天性心疾患学会 成人先天性心疾患専門医連携修練施設 日本心血管インターベンション治療学会 経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設 日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本心血管インターベンション治療学会 卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本心エコー図学会 認定心エコー図専門医制度研修施設 日本アレルギー学会 アレルギー専門医準教育研修認定施設 日本脈管学会 研修指定施設 日本循環器学会 経皮的三尖弁接合不全修復システム実施施設 特定非営利活動法人日本肺癌学会　教育認定施設　　など

37.長野赤十字病院

1)専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・長野赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・指導医は 36 名在籍しています。 ・施設内において研修する専攻医の研修を管理する、研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：内科カンファレンス、病診連携循環器勉強会、長野市医師会循環器疾患研究会、糖尿病公開勉強会、呼吸器疾患勉強会、医学教育研究会、北信がん診療・緩和ケア事例検討会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設（川西赤十字病院）の専門研修では、電話や週 1 回の長野赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長　小林　衛
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 36 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 7 名、神経学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、ほか
外来･入院患者数	延べ外来患者数 27,416 名（1 ヶ月平均）延べ入院患者数 17,509 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病

療･診療連携	連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本感染症学会連携研修施設、日本不整脈学会･日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設　など

38.済生会宇都宮病院

認定基準 【整備基準24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・栃木県済生会宇都宮病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処するためカウンセラーへの相談が可能です. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が39名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績　医療倫理2回，医療安全5回，感染対策4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2022年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度1回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に対応可能です.
認定基準 【整備基準24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70疾患群のうち35以上の疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準24】 4）学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室を整備しています．文献検索：Uptodate，DynaMed，メディカルオンライン，医中誌等利用可能です. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・臨床試験管理室，臨床研究実験室を設置しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績3演題）を予定しています.
指導責任者	田原　利行 【内科専攻医へのメッセージ】 栃木県宇都宮市の中心的な急性期病院である済生会宇都宮病院を基幹施設として，近隣の医療圏および東京都にある連携施設で内科研修をおこない，急性期医療から外来での管理まで包括的に対応できる内科専門医をめざします．連携施設には地域医療を主にしている施設と県立がんセンター・複数の大学病院を含んでおり，common diseaseから希少疾患まで，多くの症例を経験することができるのが特色です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医39名，日本内科学会総合内科専門医29名， 日本内科学会総合内科専門医5名日本消化器病学会消化器専門医5名，日本循環器学会循環器専門医7名， 日本内分泌学会専門医2名，日本糖尿病学会専門医3名，

	日本腎臓病学会専門医3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医5名， 日本血液学会血液専門医1名，日本神経学会神経内科専門医4名
外来・入院患者数	外来患者数　　1,273名（1日平均） 新入院患者数　1,358名（1月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本IVR学会専門医修練施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

39.鹿児島大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·鹿児島大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が鹿児島大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 1 名以上在籍していることとします.(施設の研修委員会) ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な病例数を診療していることとします.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鹿児島大学病院 内科専門医研修プログラム統括責任者 大石 充 【内科専攻医へのメッセージ】 鹿児島大学病院を中心とした鹿児島県専門研修プログラムは，鹿児島本土および離島，その近隣医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療を行うことができる内科専門医師を養成することを目的としています．内科専門医として高い倫理観を持ち，最新の標準的医療を実践し，安全な医療を心がけ，プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる内科研修を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 81 名，日本内科学会総合内科専門医 64 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名，日本循環器学会循環器専門医 23 名，

	日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 10 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名， 日本血液学会血液専門医 8 名，日本神経学会神経内科専門医 20 名， 日本リウマチ学会専門医 4 名，日本老年医学会専門医 2 名, 日本肝臓学会専門医 15 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 20 名, 臨床腫瘍学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数（年間）2025 年度	外来患者 296, 126 人　入院患者 180, 848 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のほとんどの症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 など

3)専門研修特別連携施設（離島診療所）

1.南大東診療所（南部医療センター・こども医療センター附属）

人口 1,248 人（男 719、女 529）
南大東島は、サンゴ礁が隆起してできた島で、島の広大な畑の下には鍾乳洞が数多くあります。また、南北大東対抗体育大会をはじめ、たくさんのスポーツ大会があり、運動に関しても盛んです。診療所は、常に県、村役場、親病院である南部医療センターと連絡をとりながら診療にあたっています。島で唯一の医療機関であり、スタッフは医師、看護師、事務員 2 名の 4 名体制です。協力しながら毎日楽しく働いています。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.″「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

2.粟国診療所（南部医療センター・こども医療センター附属）

人口 772 人（男 412、女 360）

粟国島は那覇泊港から北西へフェリーで 2 時間、那覇空港から 9 名乗りのセスナ機で 25 分のところにある島です。診療所は人口約 750 名の島で唯一の医療機関です。スタッフは医師、看護師、事務員の 3 名体制です。建物は古いですが、少しずつ診療機器を新しくするなど、島の皆さんの健康を守るための体制を整えています。島内には、介護施設として「特別養護老人ホームあぐに」もあり、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護、短期入所生活介護、居宅介護支援などを運営しています。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

3.伊平屋診療所（県立北部病院附属）

人口 1,298 人（男 676、女 622）

沖縄県の最北端の離島で、沖縄本島からフェリーで 80 分のところにあります。午前中は予約の一般外来、午後は禁煙外来などの特殊外来、外科的処置などを行っています。島で唯一の医療機関であり、スタッフは医師、看護師、事務員２名の４名体制です。村内には入所施設である高齢者生活福祉センターがあり、訪問診療や在宅患者の往診も行っています。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

4.伊是名診療所（県立北部病院附属）

人口 1,525 人（男 811、女 714）
診療所は島の中心にあり、診療所のすぐとなりにある村役場とともに島生活の中核となっています。1ヶ月で約 500 名の受診があり、島人口の約１／３が利用しています。島で唯一の医療機関であり、スタッフは医師、看護師、事務員２名の４名体制です。毎年、秋にトライアスロン大会があり本島県外から多くの選手が参加します。応援医療スタッフとの交流もあり、大会期間中は充実した医療体制が確保されます。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

5.多良間診療所（県立宮古病院附属）

人口 1,246 人（男 671、女 575）
多良間島は宮古島と石垣島の中間付近に位置していますが、現在は宮古島への飛行機しか運行していません。住民は 1300 人程おり、島で唯一の診療所です。診療所では高齢者の慢性疾患、小児の風邪、外傷などの外科疾患を診ています。学生、研修医や海外からの研修生等様々な方が診療所へ見学、研修にいらしてます。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。 地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

6.西表西部診療所（県立八重山病院附属）

人口 2,220 人（男 1,136、女 1,156）

西表島はイリオモテヤマネコやカンムリワシなど天然記念物に指定されている貴重な動植物が多く生息していることで有名で、その固有種の多様さから「東洋のガラパゴス」と称されています。診療所は祖納という集落にあり、船でしか行けない集落である船浮や鳩間島などを含めた西部一体の約１４００人の住民を診療対象としています。西部地域には長期滞在型の民宿やリゾートホテルなどもあるため、旅行シーズンは観光客の受診患者も多いです。また南風見苑という特別養護老人ホームを擁し、こちらの施設入所者の定期的な診察も行なっています。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

7.大原診療所（県立八重山病院附属）

人口 2,220 人（男 1,136、女 1,156）
西表島の東部地区を診療圏に持ち、2002 年に新築された、県内の離島診療所としては比較的新しい診療所です。石垣島から高速船で約 30 分、島の東の玄関口にあたる大原港の近くに位置しています。約 1000 名の住民をカバーし、1 日の来院患者数は 15～20 名で、その約 6 割は高血圧、糖尿病、高脂血症などの慢性疾患、その他は内科や小児科の急性疾患、外傷や皮膚科などの外科系疾患となっています。在宅患者の往診も行っています。1 年を通して、研修医をはじめ医学生、看護学生が県内外から訪れ、離島医療に接しています。

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があります。 ･メンタルストレスやハラスメント適切に対処する部署は沖縄県立中部病院にあり、各離島診療所との連携があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。 ･基幹施設である沖縄県立中部で行う CPC（2017 年度実績 5 回），もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，遠隔離島でもテレビ会議システムを用いて、参加する機会を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野については、総合内科的外来診療を通して、幅広く経験できます。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄には 16 の県立離島診療所があり、人口規模の多い、症例が豊富な診療所を特別連携施設としています。一人の医師が島の医療を一手に引き受けていますが、離島診療所での研修で離島医療の醍醐味、難しさの両方を経験して頂きたいと思っています。The doctors who specialize in you.〞「あなたを専門にしている医師です」といつも考え、地域のニーズを考えて行動できるような医師養成に繋がることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	なし
外来・入院患者数	外来患者 500 名程度（1 ヶ月平均）入院患者なし
病床	なし
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，離島診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ。患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価），複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方，かかりつけ医としての診療の在り方，褥創についてのアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について。地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	なし

整備基準 44 に対応

沖縄県立中部病院内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。
内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対し、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理、予防医学、日常診療を実践します。

2）内科系救急医療：内科系急性、救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な内科系救急医療を実践します。

3）病院での総合内科（Generality）診療：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識、洞察力を持ち、総合内科診療を実践します。

4）総合内科的視点を持った subspecialty 診療：病院での内科系 subspecialty を受け持つ中で、総合内科(Generalist)の視点から subspecialist としての診療を実践します（資料集－資料２を参照）

内科専門医は、上記に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

沖縄県立中部病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして，沖縄県中部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を専攻医が獲得していることを要します。また，希望者には Subspecialty 領域の研修や、高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です。

沖縄県立中部病院内科専門研修プログラム終了後には，そのまま本プログラムに連続する形で、Subspecialty の専門研修を継続することも可能です。また、専攻医の希望するキャリアパスに応じて、国内外の研修病院、大学院などを紹介することも可能です。なお、総合内科医として、沖縄県立病院で引き続き指導医としての研鑽を積むことも可能です。

2）プログラムの特色

①本プログラムは，沖縄県本島中部医療圏の中心的な急性期病院である沖縄県立中部病院を基幹施設として，沖縄県北部、宮古、八重山医療圏および沖縄本島にある連携施設・特別連携施設での研修を含め、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。さらに琉球大学病院、沖縄県立南部医療センター、杏林大学医学部、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターとも連携しており、短期研修を行うことができます。

②沖縄県立中部病院は、約 50 年前から続く臨床研修制度を有し、連携施設である北部、宮古、八重山病院との深い連携のもと、これら地域中核病院の診療を担う人材を育成し、派遣する機能を担ってきました。これらの連携施設は、地理的な制限もあり、まさに内科専門医の理想像である全人的な内科診療の実践が、より高いレベルで求められます。そのため、本プログラムの各病院では“Subspecialist である前に良き Generalist であれ”を共通の合言葉に、総合内科（GIM）的教育を十分に行った上で Subspecialty 教育へと発展させていくことを基本方針とし、内科各 Subspecialty 科の指導医は常にこのことを意識して日々の研修医教育を行っています（資料集図１：プログラム概念図を参照）。過去に多くの内科専門医を輩出しています（平成 28 年 1 月時点で、沖縄県の総合内科専門医 199 名中 60 名が当院初期、または後期研修経験者です）。いずれも、連携施設での経験を踏まえ、総合内科医としての視点を持った内科専門医として活躍しています。

③連携施設である離島北部医療機関での通年研修では、内科専門医に求められる役割を実践でき、内科基本領域の研修の総仕上げの場として格好の機会となります。

④沖縄県立中部病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

⑤基幹施設である沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験や、高度専門医療が必要な患者の診療経験、さらには、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

⑥沖縄県立中部病院での研修中は、ローテーション先を問わず、外来専従指導医のもとで総合内科外来研修を行います。また、内科救急当直も指導医とともに行います。

⑦沖縄県立中部病院には、初期研修医が約 60 名在籍しており、屋根瓦方式の診療体制のも

と、自らも教える立場に立つことで、より学習効果が高まります。

⑧臨床現場での経験学習に加えて、カンファレンス、レクチャーなどの現場以外での学習機会も豊富です。どこの Subspecialty 領域をローテーションしていても、内科全体の教育行事として参加できる仕組みがあり、継続的に内科全般の内容を研修できます。
（資料集－資料 7 を参照）（資料集 14；内科週間スケジュールを参照）

3）専門研修の期間

内科専門医は、２年間の初期臨床研修修了後に、３年間の専攻医としての修練期間を経て、育成されます。本プログラムでは、下記の通り 2 つのコースを設定しています。

１）通常コース：専門研修（専攻医）3 年間のうち、基幹施設である沖縄県立中部病院で 2 年間、連携施設（北部、宮古、八重山病院）で 1 年の専門研修を行います。専攻医数、連携施設の状況に合わせて、最大 1.5 か月の短期研修を 1 年目に行う場合があります。中部病院内での各専科のローテーション期間は 4-8 週を基本単位としています。専攻医 2 年目の秋から冬に、専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）、各連携施設のニーズなどを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。
なお，研修達成度によっては中部病院の 2 年間のうち最大 1 年間を Subspecialty 研修としてカウント可能になる見込みです。また、連携施設での研修を 2 年目に前倒しで行い、3 年目に中部病院での Subspecialty 研修を行う場合もあります（後述 3 を参照）。
定員は、9 名を予定しています。

	通常コース
1 年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む） および 1.5 ヶ月連携施設
2 年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む）、 場合により専科研修
3 年目	連携施設

２）連携施設優先コース（北部病院）
連携施設（北部病院）での研修を 2 年間、中部病院での研修を 1 年間行うコースです。
定員は、1 名を予定しています。

	連携施設（北部病院）優先コース

1年目	中部病院ローテーション（ＣＣＵ，ＩＣＵ含む）
2年目	連携施設（北部病院）
3年目	連携施設（北部病院）

3）場合により、通常コースの一環として、1年目を中部病院および2年目をへき地離島連携施設で研修し、研修修了要件を十分満たし、かつ本人が希望する場合は3年目には、１年間中部病院で、消化器、循環器、腎臓など将来の subspecialty に特化した研修を行うコースも設定できます。将来の subspecialty 専門医取得にそなえ、4-5年目(PGY6-7)の各 subspecialty 専門医研修に連続して移行できるコースです。4-5年目の subspecialty 研修をひきつづき、中部病院で行うかどうか選択できます（subspecialty 専門医制度はまだ制度設計が十分になされておらず、不確定な部分もあるため、適宜相談しながら調整します）。

さらに専攻医2年目で、希望者には琉球大学、杏林大学、沖縄県立南部医療センター、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センターで短期（3か月単位、通年で4名までの予定）の研修や、離島診療所（特別連携）で３ヶ月の地域医療、総合内科的経験を積めます（主に２年目を想定、本人が希望する場合、連携施設の１年とは別枠として）。いずれの短期研修も、専攻医数、基幹施設、受け入れ先の状況に合わせて、可否を決定します。

これらのコース選択、変更などの調整は、1年目の修了時または、2年目の途中で専攻医の希望、研修の到達程度、各連携施設の状況などを総合的に判断して決まります。

4）研修施設群の各施設名（資料集－資料１を参照）

基幹施設：
沖縄県立中部病院
連携施設：
沖縄県立北部病院
沖縄県立宮古病院
沖縄県立八重山病院
豊田地域医療センター
国立がん研究センター中央病院
国立がん研究センター東病院
がん研究会有明病院
基幹病院連携施設：
琉球大学病院
沖縄県立南部医療センター

杏林大学医学部附属病院
宮崎市郡医師会病院
飯塚病院
手稲渓仁会病院
前橋赤十字病院
湘南鎌倉総合病院
白河厚生総合病院
九州大学病院
岡山大学病院
東京大学医学部附属病院
今村総合病院
熊本赤十字病院
聖マリアンナ医科大学病院
帝京大学医学部附属病院
ハートライフ病院
愛媛県立中央病院
埼玉医科大学総合医療センター

特別連携：
沖縄県立北部病院附属伊是名診療所
沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属粟国診療所
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属南大東診療所
沖縄県立宮古病院附属多良間診療所
沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所
沖縄県立八重山病院附属大原診療所

5）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

沖縄県立中部病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（資料集－資料 11 を参照）

指導医師名（資料集－資料 6 を参照）

6）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋から冬にかけて、専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終えた後、専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，連携施設，特別連携施設で研修をします。
基幹施設である沖縄県立中部病院では、各 subspecialty 領域の病棟をローテート研修します。同時に、総合内科外来、内科病棟当直、内科救急当直を行い、常に総合内科領域の研修を継続的に行うと同時に、救急疾患への対応能力獲得を目指します。
連携施設である沖縄県立北部病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院では、内科全般にわたる疾患群の研修を、病棟・外来・救急業務を通じて行っていきます。専攻医の希望・将来像を踏まえ、subspecialty 領域（循環器、消化器、腎臓、呼吸器など）の診療にも携わります。

特別連携施設である離島診療所での研修を希望する場合は、僻地医療に貢献する重要性と、

内科領域におけるかかりつけ医機能を重点的に学ぶ機会を得ます。
また、基幹施設同士の連携施設である琉球大学、沖縄県立南部医療センター、杏林大学、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院、湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センター、連携施設である豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院を希望する場合は、先進医療と頻度の少ない疾患を経験する機会を得ます。

7）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である沖縄県立中部病院診療科別診療実績を以下の表に示します。沖縄県立中部病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズから比較的稀な疾患まで、内科全領域の症例数は十分あると言えます。

表．沖縄県立中部病院診療科別診療実績および連携施設診療実績

2025 年実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	942	6,527
循環器内科	1,025	12,429
代謝内科	−	−
内分泌内科	−	−
腎臓内科	556	7,384
感染症内科	532	1,205
呼吸器内科	628	2,805
アレルギー科	−	−
神経内科	13	2,519
血液内科	674	6,950
膠原病内科	8	4,640
救急科	438（ER への一泊入院） 600（ER から病棟に入院）	8,631 （ER の内科系受診数）
総合内科	1,168	16,165

＊代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 10 名に対し十分な症例を経験可能です。
＊8 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（資料集－資料 1 を参照）。
＊剖検体数は 2019 年度 12 体,2020 年度 8 体,2021 年度 8 体,2022 年度 1 体です。
＊各連携施設での経験可能領域（資料集－資料 9 を参照）
＊中部病院における、A レベルで経験が必要な代表的疾患の症例数（資料集－別表 1 を参照）

8）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

専攻医 1 年次：

各 Subspecialty 分野をローテーションし、内科全般の症例を主担当医として経験します。1 年次終了時点で、全 70 疾患群のうち 20 疾患群以上を経験し、登録評価システム（資料集-資料 3 を参照）に登録することを目標にします。また、研修修了に必要な病歴要約を 10 編以上記載し、登録することを目標にします。

専攻医 2 年次：

各 Subspecialty 分野で不足する部分のローテーション、および将来専攻する Subspecialty のローテーションを行います。2 年次終了時点で、全 70 疾患群のうち少なくとも 45 疾患群、120 症例以上を経験し、登録評価システムに登録することを目標にします。また、研修修了に必要な病歴要約を 29 編全て記載し、登録することを目標にします

専攻医 3 年次：

連携施設において、内科全般における実践研修と、各自が目指す専攻に合わせた subspecialty 研修を継続します。3 年次終了時点で、全 70 疾患群のうち少なくとも 56 疾患群、160 症例以上を経験し、登録評価システムに登録することを目標にします。また、登録を終えた病歴要約の改定を行い、受理されるようにします。

なお、上記はあくまで目安であり、実際には、初期研修での実績も含めて、専攻医 2 年次終了時点で、十分に修了要件を満たせる可能性があります。

＜表：各年次の到達目標と研修の目安＞

1 年次	・中部病院各 subspecialty ローテーション（CCU、ICU を含む） ・1.5 ヶ月の連携施設短期研修 ・JMECC 受講 ・1 回の学術集会参加、発表（例：沖縄県医学会総会、内科学会九州地方会など） ・20 疾患群以上を経験し、病歴要約を 10 編以上記載し、それぞれ登録する
2 年次	・中部病院各 subspecialty ローテーション（CCU、ICU を含む） ・場合によっては、subspecialty 通年研修 ・1 回の学術集会参加、発表（例：内科学会九州地方会、年次集会、ことはじめなど） ・45 疾患群以上（120 症例以上）を経験し、病歴要約を 29 編記載し、それぞれ登録する
3 年次	・連携施設での通年研修（general+subspecialty） ・少なくとも 56 疾患群以上（160 症例以上）を経験し登録する ・提出した病歴要約を、受理されるように改定する ・1 回の学術集会参加、発表（例：内科学会年次集会、各 subspecialty 地方会および総会）
共通	・週半日以上の総合内科外来研修 ・内科病棟当直研修、内科救急当直研修 ・内科全体カンファレンス、CPC、M&M カンファレンスへの参加（約週 2 回） ・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講 ・地域参加型カンファレンス、研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参加（2 か月に 1 回）

各 Subspecialty 分野をローテーションし、入院患者を順次主担当医として担当します。

Subspecialty 分野別のローテーションではあるが、入院中の患者の多くは他分野の疾患を含む内科全般の疾患を同時に有しており、決して subspecialty に偏ることなく幅広い疾患について、主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます。
13 の subspecialty すべての患者の経験ができますが、研修の診療単位としては、循環器（CCU）、集中治療室（ICU）、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、感染症内科、神経内科、血液内科の８つの診療科を、4-8 週おきにローテーションします。総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます。内分泌疾患、代謝疾患は主に腎臓内科で経験しますが、領域横断的に各診療科で担当することもあります。アレルギー疾患については、気管支喘息は主に呼吸器内科で担当しますが、薬剤アレルギーは領域横断的に担当します。膠原病は、主に腎臓内科、血液内科で担当します。ICU では、各 subspecialty の重症患者を担当します。

9）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（資料集-資料 3 を参照）を用いて、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います。また、必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受けます。2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，次回までの目標を設定します。同時に、研修上で困っていること、将来のキャリア形成、subspecialty 研修先などについても相談を行います。

また、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を補完するものとして、病院独自の評価票を用いて研修医評価も行います。具体的には、ローテーション先の指導医による評価、ローテート先病棟看護師による評価、および年１回の全研修医間評価を行います。担当指導医とともに振り返りを行い、結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にも反映していきます。

10）プログラム修了の基準

①日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下の ⅰ)～ⅵ)の修了要件を満たすこと。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は、20 症例まで）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みであること（資料集-資料 4 参照）。

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されて

いること。
iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上行うこと。
iv）JMECC 受講歴が 1 回あること。
v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること
vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められること。

②当該専攻医が上記修了要件を充足していることを沖縄県立中部病院内科専門医研修プログラム管理委員会（資料集－資料 12 参照）は確認し，研修期間修了約 1 か月前に沖縄県立中部病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります。

11）専門医申請にむけての手順

①必要な書類
i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
ii）履歴書
iii）沖縄県立中部病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

②提出方法
内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③内科専門医試験内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

12）プログラムにおける待遇

各施設における待遇在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（資料集－資料 1 参照）。

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

･カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 病棟研修、subspecialty 診療科検査を担当します。結果として，Subspecialty 領域の研修につながります。

･内科基本領域の知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には、積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

・なお，研修達成度によっては、中部病院の 2 年間のうち最大 1 年間 Subspecialty 研修も可能

です（個々人の症例充足度により異なります）

・本プログラム終了後も、希望に応じてそのまま当院での subspecialty 研修が可能になるように、適宜サポートを行います。

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年８月と２月に行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，沖縄県立中部病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
また、専攻医代表も研修委員会に参加し、当事者目線での意見を挙げてもらうことで、研修プログラムの質改善に取り組みます（資料集－資料 12 参照）。

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16）その他

特になし

整備基準 45 に対応

沖縄県立中部病院内科研修プログラム
指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が沖縄県立中部内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
・担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（以下研修手帳 Web 版）（資料集－資料 3 参照）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2）専門研修の期間

・年次到達目標は、資料集-資料４に示すとおりです。
・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3）専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医

は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4）日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5）逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、沖縄県立中部内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に沖縄県立中部内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動、ならびに休職勧告などを行います。

7）プログラムならびに各施設における指導医の待遇

各研修施設の規則によります。

8）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11）指導医同士が常に担当研修医のみならず他の研修医に対して眼を配り、必要に応じて介入を行うよう努めます。研修委員会、プログラム管理委員会以外でも日常的に意思疎通を行うように努めます。

資料集

資料１：沖縄県立中部病院内科研修プログラム研修施設群一覧表

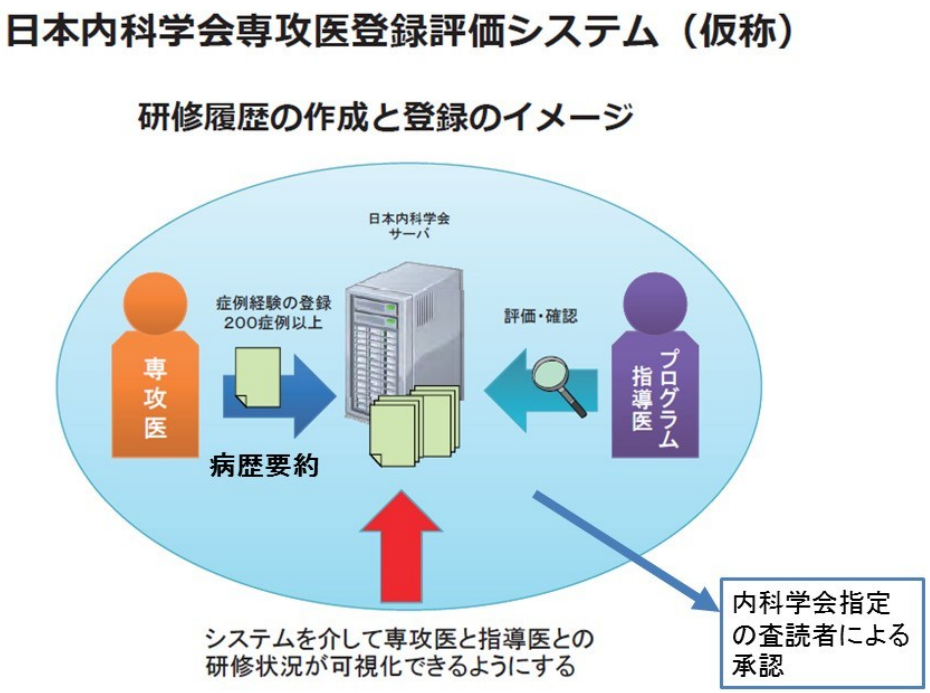
	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医門医数	内科剖検数
基幹施設	沖縄県立中部病院	559	201	10	24	20	6
連携施設	沖縄県立北部病院	250	150	4	11	3	1
連携施設	沖縄県立宮古病院	277	90	10	5	5	1
連携施設	沖縄県立八重山病院	302	96	5	6	5	0
連携施設	琉球大学病院	620	121	3	21	21	9
連携施設	杏林大学医学部	1,055	360	13	96	58	35
連携施設	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	444	170	9	19	17	1
連携施設	宮崎市郡医師会病院	267	90	3	14	14	7
連携施設	飯塚病院	1,006	561	18	13	44	8
連携施設	手稲渓仁会病院	670	270	8	26	24	7
連携施設	前橋赤十字病院	555	360	9	19	17	7
連携施設	湘南鎌倉総合病院	669	321	15	44	33	13
連携施設	白河厚生総合病院	459	102	5	24	9	4
連携施設	九州大学病院	1242	376	11	151	121	13
連携施設	東京大学医学部附属病院	1208	334	12	161	113	15
連携施設	豊田地域医療センター	190	150	5	6	4	0
連携施設	国立がん研究センター中央病院	578	358	14	32	45	11
連携施設	国立がん研究センター東病院	425	262	21	15	26	2
連携施設	今村総合病院	428	200	15	10	13	1
連携施設	熊本赤十字病院	490	225	10	23	23	5
連携施設	がん研究会有明病院	644	253	27	16	50	4
連携施設	聖マリアンナ医科大学病院	955	378	9	105	86	18
連携施設	帝京大学医学部附属病院	1014	374	12	56	41	40
連携施設	ハートライフ病院	308	142	5	9	5	3
連携施設	愛媛県立中央病院	827	250	9	35	34	9
連携施設	埼玉医科大学総合医療センター	1057	270	10	44	30	18

連携施設	東京都立多摩総合医療センター	789	283	12	47	50	30
連携施設	大阪公立大学医学部附属病院	965	234	12	90	75	9
連携施設	大阪府済生会吹田病院	440	176	7	17	12	3
連携施設	岡山大学病院	829	213	9	71	75	5
連携施設	県立広島病院	707	221	11	33	26	7
連携施設	高松赤十字病院	465	179	12	27	21	9
連携施設	仙台厚生病院	409	300	5	21	21	9
連携施設	長野赤十字病院	680	269	10	36	36	9
連携施設	聖路加国際病院	520	160	12	48	32	9
連携施設	東海大学	804	252	8	59	62	13
連携施設	丸太町病院	150	95	7	7	1	2
連携施設	石切生喜病院	311	133	7	25	20	4
連携施設	泉大津急性期メディカルセンター	300	-	10	18	13	6
連携施設	東住吉森本病院	329	200	6	9	6	5
連携施設	栃木県済生会宇都宮病院	644	221	8	39	29	7
連携施設	東京ベイ・浦安市川医療センター						
連携施設	鹿児島大学病院	704	146	8	81	64	6
特別連携施設	南大東診療所			—	—	—	—
特別連携施設	粟国診療所			—	—	—	—
特別連携施設	伊平屋診療所			—	—	—	—
特別連携施設	伊是名診療所			—	—	—	—
特別連携施設	多良間診療所			—	—	—	—
特別連携施設	西表西部診療所			—	—	—	—
特別連携施設	大原診療所			—	—	—	—

資料２：プログラム概念図



資料３：専攻医登録システムイメージ図（内科学会資料を改変）



資料４：疾患群症例病歴要約　到達目標

別表１　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※3 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群（任意選択含む）	45疾患群（任意選択含む）	20疾患群	29症例（外来は最大7）※3
症例数※5		200以上（外来は最大20）	160以上（外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

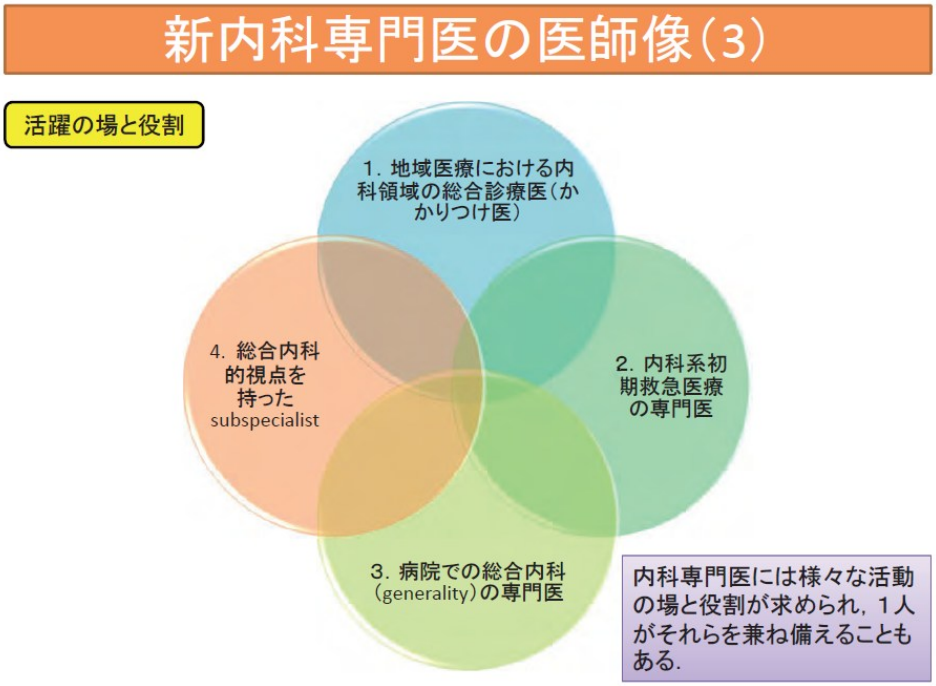
※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾 患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する． 例）「内分泌」2 例 +「代謝」1 例，「内分泌」1 例 +「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が 認められる．

資料５；専門研修後の成果（内科学会資料より）



資料６；指導医リスト（新指導医資格による）

氏名	所属	役職
和気　稔	沖縄県立中部病院	循環器センター長
高橋　孝典	沖縄県立中部病院	循環器内科部長
屋宜　宜仁	沖縄県立中部病院	循環器内科副部長
宮城　唯良	沖縄県立中部病院	循環器内科副部長
喜舎場　朝雄	沖縄県立中部病院	医療部長兼呼吸器内科部長
椎木　創一	沖縄県立中部病院	感染症内科部長
金城　正高	沖縄県立中部病院	医療部長兼神経内科部長
尾原　晴雄	沖縄県立中部病院	医療部長兼内科部長、研修センター長
朝倉　義崇	沖縄県立中部病院	血液内科部長
山口　裕	沖縄県立中部病院	救急科副部長
金城　光代	沖縄県立中部病院	リウマチ科部長
高倉　俊一	沖縄県立中部病院	感染症内科医長
座喜味　盛哉	沖縄県立中部病院	消化器内科副部長
高山　義浩	沖縄県立中部病院	地域診療科部長
仲里　淳	沖縄県立中部病院	循環器内科副部長
久保田　富秋	沖縄県立中部病院	消化器内科部長
吉田　幸生	沖縄県立中部病院	腫瘍内科部長
安里　哲矢	沖縄県立中部病院	循環器内科医長
島袋　祐士	沖縄県立中部病院	循環器内科医長
中山　由紀子	沖縄県立中部病院	救急科医長
本部　卓也	沖縄県立中部病院	消化器内科副部長
須藤　航	沖縄県立中部病院	内科医長
照屋　周造	沖縄県立中部病院	腎臓内科部長
木全　俊介	沖縄県立中部病院	救急科医長
平辻　知也	沖縄県立北部病院	循環器内科部長
砂川　惇司	沖縄県立宮古病院	総合診療科医長
吉嶺　厚生	沖縄県立八重山病院	医療部長
崎間　洋邦	琉球大学医学部附属病院	第三内科　講師
石井　晴之	杏林大学医学部	呼吸器内科　主任教授
林　成峰	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター	消化器内科部長
柴田　剛徳	宮崎市郡医師会病院	副院長・臨床研修センター長
本村　健太	飯塚病院	院長
星　哲哉	手稲渓仁会病院	臨床研修部長兼 総合内科主任部長
林　俊誠	前橋赤十字病院	感染症内科部長
小泉　一也	湘南鎌倉総合病院	副院長
岡本　裕正	白河厚生総合病院	副院長兼第一内科部長
桑原　綾子	九州大学病院	臨床教育研修センター　助教
泉谷　昌志	東京大学医学部附属病院	医学系研究科・講師
野口　善令	豊田地域医療センター	総合診療科・教育顧問
堀之内　秀仁	国立がん研究センター 中央病院	人材育成センター長
内藤　陽一	国立がん研究センター東病院	総合内科長

西垂水　和隆	今村総合病院	臨床研修部長
加藤　雅行	熊本赤十字病院	総合内科・部長
高野　利実	がん研究会有明病院	院長補佐・乳腺内科・ 臨床教育研修センター長
出雲　正樹	聖マリアンナ医科大学病院	循環器内科　教授
盛田　幸司	帝京大学医学部附属病院	内分泌代謝・糖尿病内科・病院教授
秋元　芳典	ハートライフ病院	副院長兼内科部長
玉木　みずね	愛媛県立中央病院	副院長・消化器内科
前嶋　明人	埼玉医科大学総合医療 センター	腎・高血圧内科・教授
佐藤　文紀	東京都立多摩総合医療センター	内分泌代謝内科・医長
福永　周生	大阪公立大学医学部附属病院	消化器内科　講師
竹中　英昭	大阪府済生会吹田病院	副院長・臨床研修センター長
和田　淳	岡山大学病院	肝臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科教授
上田　浩徳	県立広島病院	副院長兼脳心臓血管センター長兼循環器内科主任部長
柴峠　光成	高松赤十字病院	副院長兼第一消化器科部長
松田　知己	仙台厚生病院	院長補佐兼消化器内科・肝臓内科長
小林　衛	長野赤十字病院	副院長兼肝臓内科部長
長浜　正彦	聖路加国際病院	腎臓内科　医長
水間　敦士	東海大学	医学部内科学系脳神経内科学・准教授
上田　剛士	丸太町病院	総合診療科・副院長
堀尾　武史	石切生喜病院	副院長
田口　晴之	泉大津急性期メディカルセンター	院長・心臓血管センター長
仲川　浩一郎	東住吉森本病院	副院長
田原　利行	栃木県済生会宇都宮病院	副院長　統括診療部長 消化器内科主任診療科長
大石　充	鹿児島大学病院	心臓血管・高血圧内科学・教授

資料７；沖縄県立中部病院内科研修プログラム群　カンファレンスリスト

中部病院

院内カンファレンス表（詳細は下記一覧にて）

月	火	水	木	金
各専科カンファレンス	内科グランドラウンド（全体）	各専科カンファレンス	医療安全カンファ、CPC、内科外科ER合同カンファ（週替わり）	症例検討会
コアレクチャー（病院全体）				
各専科カンファレンス、（たとえば循環器内科なら、月曜は電子カルテ利用の総合回診、水曜日心臓カテーテルカンファレンス、木曜日術前カンファレンスなど　院外地域参加カンファレンス適宜				
救急、病棟、CCU当直各専科カンファレンス、（たとえば循環器内科なら、月曜は電子カルテ利用の総合回診、水曜日心臓カテーテルカンファレンス、木曜日術前カンファレンスなど　院外地域参加カンファレンス適宜				

カンファレンス一覧

カンファレンス名	対象	内容	頻度
グランドラウンド	内科全体、開業医	Review	週一回
症例検討会	内科全体、開業医	症例検討会	週一回
Journal club	各専科単位	英語医学論文抄読会	週一回
各専科講義	研修医	プレゼン道場、聴診道場、ECG 道場、	週一回～月一回
コアレクチャー	全職員（主に研修医）	テーマを絞っての実践的講義	毎日
CPC	内科全体	病理解剖カンファレンス	年 5 回以上
医療安全カンファレンス	研修医、スタッフ	レクチャー、事例検討	年１２回
感染管理講習会	研修医、スタッフ	レクチャー、事例検討	年６回
医療倫理講習会	研修医、スタッフ	レクチャー、事例検討	年２回
指導者講習会	内科指導医	Faculty Development	年１回
JMECC（内科救急 ICLS 講習会）	内科研修医	内科 ICLS 救命救急	年 1 回
シミュレーターなどを使用したハンズオンセミナー	研修医	循環器理学所見集中講習会（ハーベイ使用）、胸腔チューブ挿入、中心静脈ライン挿入、エコーハンズオン、末梢挿入中心静脈ラインハンズオン	ハーベイは 6 週に 1 回 他は年 2 回

中部病院内で行われる他施設とのカンファレンス

カンファレンス名	対象	内容	開催頻度
在沖海軍病院との合同カンファレンス	研修医	症例検討	年 6 回当院で開催
中部合同カンファレンス	沖縄中部地区開業医、内科研修病院研修医	症例検討	年 6 回各病院交代
診療所医師症例振り返り	診療所赴任医師および当院地域ケア科指導医		2 週間に 1 回
県消防司令との緊急症例検討	離島赴任医師との Web 会議システムを利用した定期勉強会		月 1 回
ドクタヘリー症例検討			年 4 回

北部病院

毎週　木　8：00-8：30　内科カンファレンス

月	火	水	木	金
			8：00-8：30 内科カンファレンス	

八重山病院

毎週　月、火、木、金　7：30-8：15　症例カンファレンス
毎週　水　　7：30-8：15　画像カンファレンス（内科・外科・放射線科）
適宜　各診療科でのグループカンファレンス

月	火	水	木	金
7：30-8：15 内科症例カンファレンス	7：30-8：15 内科症例カンファレンス	7：30-8：15 画像カンファレンス（内科・外科・放射線科）	7：30-8：15 内科症例カンファレンス	7：30-8：15 内科症例カンファレンス

宮古病院

毎週　月～金 8：00-8：30　内科カンファレンス
月 1 回　19：30－　　他科合同カンファレンス
不定期　CPC 及び M&M カンファレンス

月	火	水	木	金
8：00-8：30 内科カンファレンス	8：00-8：30 内科カンファレンス	8：00-8：30 内科カンファレンス	8：00-8：30 内科カンファレンス	8：00-8：30 内科カンファレンス
				月 1 回 19：30－ 合同カンファレンス（他科）

資料８；院外で定期的に開催される医師主導の勉強会で当院専科スタッフおよび研修医が参加、発表する可能性があるもの

カンファレンス名	対象	内容	開催頻度
沖縄感染症研究会	専科医師、研修医	症例検討または、県外講師を招へいしての特別公演	年 1 回
沖縄感染管理研究会			年 1 回
沖縄県神経内科懇話会			年 11 回
沖縄臨床血液研究会			年 4 回
沖縄 SCT 懇話会			年 2 回
沖縄内視鏡会			月 1 回
沖縄肝胆膵疾患研究会			年 6 回
沖縄肝臓研究会			年 1 回
沖縄県臨床腎懇話会			年 4 回
沖縄県腎病理カンファレンス			年 2 回
沖縄県腎移植研究会			年 2 回
研修医のための CKD セミナー			年 1 回
家庭透析研究会			年 1 回
腹膜透析研究会			年 1 回
沖縄ハート			年 6 回
沖縄県心血管インターベンション研究会			年 6 回
沖縄県心臓リハビリテーション研究会			年 2 回
重症心不全研究会			年 2 回
沖縄心不全研究会			年 2 回
Ryukyus Joint Endovascular therapeutics(琉球 JET)			年 2 回
末梢血管インターベンション研究会			年 2 回
臨床呼吸器同好会			月 1 回
胸部 X 線勉強会			年 6 回
沖縄呼吸器セミナー			年 2 回
呼吸器実践セミナー			年に１回

資料９；沖縄県内の連携施設　所在地



資料１０；沖縄県立中部病院内科研修プログラム群　経験可能症例症

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
沖縄県立北部病院	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○	○
沖縄県立宮古病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	○	△	○
沖縄県立八重山病	○	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	△	○
琉球大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
杏林大学医学部	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	○	○	○	×	×	○	○	○	○	△	○	○	○
宮崎市郡医師会病	○	○	○	△	○	△	○	○	△	△	△	△	○
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
手稲渓仁会病院	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○
前橋赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
湘南鎌倉総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
白河厚生総合病院	○	○	○	○	○	△	△	○	×	○	○	○	○
九州大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊田地域医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×

国立がん研究センター東病院	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
今村総合病院	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○
熊本赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
帝京大学医学部付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハートライフ病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○
愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
埼玉医科大学総合医療センター	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	○	○	○
東京都立多摩総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○m	○	○	○	○	○
大阪公立大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府済生会吹田病院	○	○	○	×	○	○	○	×	○	△	△	△	△
岡山大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
県立広島病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○
高松赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
聖路加国際病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
東海大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
丸太町病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
石切生喜病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○
泉大津急性期メディカル	○	○	○	○	△	×	○	○	○	△	×	○	○

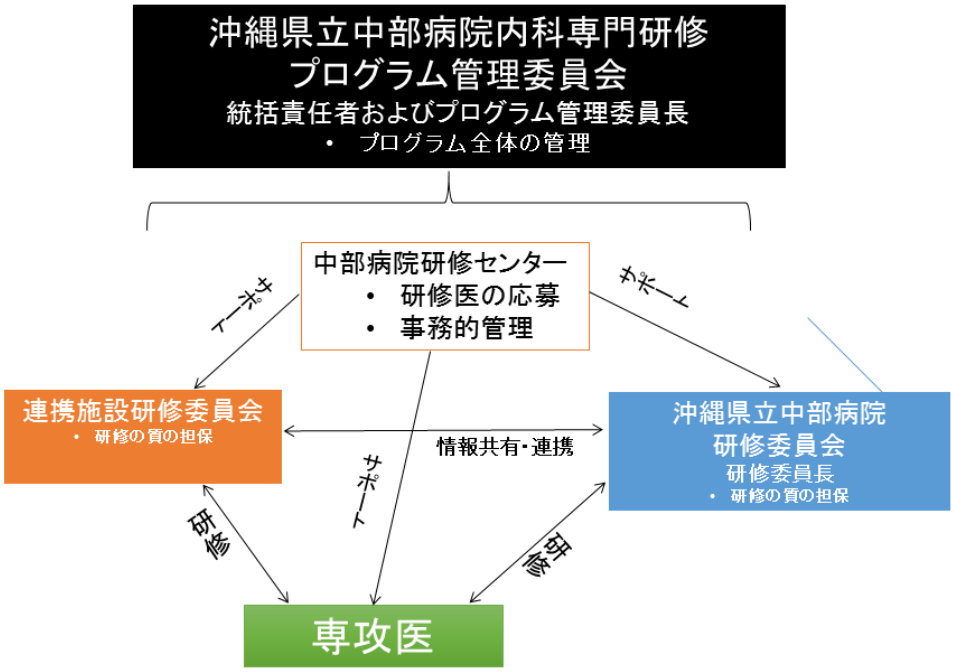
東住吉森本病院	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	×	○	○
栃木県済生会宇都宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
東京ベイ・浦安市川医療センター													
鹿児島大学病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△
南大東診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
粟国診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
伊平屋診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
伊是名診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
多良間診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
西表西部診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△
大原診療所	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	△

資料１１；プログラム管理委員会リスト

氏名	所属	役職	備考
喜舎場　朝雄	沖縄県立中部病院	医療部長	統括責任者
須藤　航	沖縄県立中部病院	内科医長	研修委員長
尾原　晴雄	沖縄県立中部病院	医療部長兼内科部長、研修センター長	プログラム管理者
天願　俊穂	沖縄県立中部病院	院長	
神里　敬子	沖縄県立中部病院	副院長	
小底　秀史	沖縄県立中部病院	ハワイ大学卒後研修事務部長	
與儀　治樹	沖縄県立中部病院	臨床研修センター担当事務	
砂川　惇司	沖縄県立宮古病院	総合診療科　医長	連携施設
吉嶺　厚生	沖縄県立八重山病院	医療部長	連携施設
星野　慎一	沖縄県立北部病院	医療部長兼消化器内科部長	連携施設
崎間　洋邦	琉球大学医学部附属病院	第三内科　講師	連携施設
河野　浩之	杏林大学医学部	脳卒中科・准教授	連携施設
林　成峰	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	消化器内科部長	連携施設
柴田　剛徳	宮崎市郡医師会病院	副院長・臨床研修センター長	連携施設
本村　健太	飯塚病院	院長	連携施設

星　哲哉	手稲渓仁会病院	臨床研修部長兼総合内科主任部長	連携施設
林　俊誠	前橋赤十字病院	感染症内科部長	連携施設
小泉　一也	湘南鎌倉総合病院	副院長	連携施設
岡本　裕正	白河厚生総合病院	副院長兼第一内科部長	連携施設
桑原　綾子	九州大学病院	臨床教育研修センター助教	連携施設
泉谷　昌志	東京大学医学部附属病院	医学教育国際研究センター（医学教育学部門）講師	連携施設
野口　善令	豊田地域医療センター	総合診療科・教育顧問	連携施設
堀之内　秀仁	国立がん研究センター中央病院	人材育成センター長	連携施設
内藤　陽一	国立がん研究センター東病院	総合内科長	連携施設
西垂水　和隆	今村総合病院	救急・総合内科　臨床研修部長	連携施設
加島　雅之	熊本赤十字病院	総合内科・部長	連携施設
高野　利実	がん研究会有明病院	院長補佐/臨床教育研修センター長	連携施設
出雲　昌樹	聖マリアンナ医科大学病院	循環器内科　教授	連携施設
田村　好古	帝京大学医学部附属病院	腎臓内科　病院教授	連携施設
佐藤　直行	ハートライフ病院	総合内科部長	連携施設
玉木　みずね	愛媛県立中央病院	消化器内科	連携施設
前嶋　明人	埼玉医科大学総合医療センター	腎・高血圧内科　教授	連携施設
佐藤　文紀	東京都立多摩総合医療センター	内分泌代謝内科・部長	連携施設
福永　周生	大阪公立大学医学部附属病院	消化器内科　講師	連携施設
竹中　英昭	大阪府済生会吹田病院	副院長・臨床研修センター長	連携施設
和田　淳	岡山大学病院	腎臓・糖尿病・内分泌内科　リウマチ・膠原病内科教授	連携施設
上田　浩徳	県立広島病院	副院長兼脳心臓血管センター長兼循環器内科主任部長	連携施設
柴峠　光成	高松赤十字病院	副院長兼第一消化器科部長	連携施設
松田　知己	仙台厚生病院	院長補佐兼消化器内科・肝臓内科長	連携施設
小林　衛	長野赤十字病院	副院長兼腎臓内科部長	連携施設
長浜　正彦	聖路加国際病院	腎臓内科医長	連携施設
水間　敦士	東海大学	医学部内科学系脳神経内科学・准教授	連携施設
上田　剛士	丸太町病院	総合診療科・副院長	連携施設
堀尾　武史	石切生喜病院	副院長	連携施設
田口　晴之	泉大津急性期メディカルセンター	院長・心臓血管センター長	連携施設
仲川　浩一郎	東住吉森本病院	副院長	連携施設
田原　利行	栃木県済生会宇都宮病院	副院長　統括診療部長　消化器内科主任診療科長	連携施設
	東京ベイ・浦安市川医療センター		連携施設
大石　充	鹿児島大学病院	心臓血管・高血圧内科学・教授	連携施設

資料１２；プログラム管理委員会・研修センター・研修委員会組織図



資料１３；研修委員会リスト

氏名	所属	役職	備考
喜舎場　朝雄	沖縄県立中部病院	医療部長兼呼吸器内科部長	統括責任者
宮城　唯良	沖縄県立中部病院	循環器内科副部長	
尾原　晴雄	沖縄県立中部病院	医療部長兼内科部長、研修センター長	プログラム管理者
久保田　富秋	沖縄県立中部病院	消化器内科部長	
和氣　稔	沖縄県立中部病院	循環器センター長	
幸喜　翔	沖縄県立中部病院	地域医療科	
金城　光代	沖縄県立中部病院	リウマチ科部長	
朝倉　義崇	沖縄県立中部病院	血液内科部長	
豊里　尚己	沖縄県立中部病院	救急科部長	
山口　裕	沖縄県立中部病院	救急科副部長	
照屋　周造	沖縄県立中部病院	腎臓内科部長 臨床研修管理委員長	総務（ローテーション、働き方改革等）
須藤　航	沖縄県立中部病院	内科医長	内科研修委員長 学会担当
小底　秀史	沖縄県立中部病院	ハワイ大学卒後研修事務長	
與儀　治樹	沖縄県立中部病院	臨床研修センター担当事務	

資料１４；内科週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前中</td><td>各専科カンファレンス</td><td>内科グランドラウンド（全体）</td><td>各専科カンファレンス</td><td>医療安全カンファ、CPC、内科外科ER合同カンファ（週替わり）</td><td>症例検討会</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="5">各専科単位で救急室回診</td></tr>
<tr><td colspan="5">総合内科外来（週一回）、および病棟回診、各専科検査、処置など</td><td colspan="2" rowspan="5">病棟業務、救急、CCU当直または休日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td colspan="5">コアレクチャー（病院全体）</td></tr>
<tr><td colspan="5">病棟業務、各専科検査、処置</td></tr>
<tr><td colspan="5">各専科カンファレンス、（たとえば循環器内科なら、月曜は電子カルテ利用の総合回診、水曜日心臓カテーテルカンファレンス、木曜日術前カンファレンスなど　　院外地域参加カンファレンス適宜</td></tr>
<tr><td colspan="5">救急、病棟、CCU当直</td></tr>
</table>

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、総合内科と各診療科（Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty) の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

別表１；中部病院におけるＡレベルを要する症例数（H26.4～H27.3）

科	カテゴリー	A レベルを要する症例	症例数
総合内科Ⅰ(一般)	1	死（死亡診断を念頭に）	469
総合内科　II（高齢者）	1	自宅通院ができず、退院調整を必要とした患者	772
総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	がん薬物療法の副作用と支持療法	417
消化器	1	腫瘍性疾患 ①胃癌	130
	3	腫瘍性疾患 ①大腸ポリープ（過形成性ポリープ、腺腫）	146
		②結腸癌、直腸癌、肛門癌	192
	4	炎症性疾患 ①感染性腸炎（腸管感染症、細菌性食中毒を含む）	230
	6	炎症性疾患 ①肝硬変	82
	7	代謝関連疾患 ①アルコール性肝障害	37
循環器	1	急性冠症候群 ①不安定狭心症	160
		②急性心筋梗塞	82
	2	安定型狭心症 ①労作性狭心症	175
		②安静時狭心症、異型狭心症	42
	4	期外収縮	44
		頻脈性不整脈	
		②心房粗・細動	509
		③心室頻拍、心室細動	28
	5	徐脈性不整脈 ①洞不全症候群	72
		②房室ブロック	81
	6	僧帽弁疾患 ①僧帽弁閉鎖不全症	135
		大動脈疾患 ①大動脈弁狭窄症	98
		②大動脈弁閉鎖不全症	70
	7	肺血栓塞栓症	36
内分泌	1	下垂体後葉疾患 ①SIADH	16
	2	甲状腺中毒症 ①Basedow〈Graves〉病	52
		甲状腺機能低下症 ①慢性甲状腺炎〈橋本病〉	43
	4	副腎腫瘍	10

		①非機能性副腎皮質腫瘍（incidentaloma を含む）	
代謝	1	1 型糖尿病	64
	3	薬物による低血糖（糖尿病治療薬によるもの）	28
	5	痛風	52
腎臓	1	慢性腎臓病〈CKD〉→慢性腎不全（末期腎不全〈ESKD〉を含む）	262
	2	急性腎障害（腎前性、腎性、腎後性）〈AKI〉→急性腎不全	103
	3	糸球体疾患（一次性） ①ネフローゼ症候群（微小変化群、巣状分節性糸球体硬化症、膜性増殖性糸球体腎炎、	82
		②慢性糸球体腎炎（IgA 腎症など）→CKD も参照	48
	6	低ナトリウム、高ナトリウム血症	84
		K 代謝の異常（低または高カリウム血症）	143
		Ca, P, Mg の異常 〈高カルシウム血症）	53
呼吸器	1	細菌性肺炎（市中肺炎、院内肺炎）	681
		肺化膿症	17
		マイコプラズマ肺炎	9
		肺結核症、非結核性抗酸菌症	50
		ニューモシスチス肺炎、日和見感染症	34
	2	気管支拡張症	39
		COPD〈慢性閉塞性肺疾患〉	288
	3	気管支喘息	512
		サルコイドーシス	13
	5	原発性肺癌（小細胞癌、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌）	162
	6	気胸	36
		胸膜炎	12
		慢性呼吸不全、急性増悪、肺性脳症〈CO2 ナルコーシス〉	99
	8	閉塞型睡眠時無呼吸症候群（ポリソムノグラフィー施行例）	106
血液	1	出血性貧血	291
		鉄欠乏性貧血	57
	2	悪性リンパ腫（Hodgkin リンパ腫、非 Hodgkin リンパ腫）	77
	3	播種性血管内凝固〈DIC〉	42
神経	1	脳梗塞（アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞）	253
		一過性脳虚血発作〈TIA〉	34
		脳出血	158
	2	髄膜炎・脳炎・脳腫瘍	45
	3	多発性硬化症・視神経脊髄炎	17
		Guillain-Barre 症候群	7
		重症筋無力症・Lambert-Eaton 症候群	28
	5	Parkinson 病	72
		筋萎縮性側索硬化症	32

		脊髄小脳変性症、多系統萎縮症	2
	6	Alzheimer 病	38
		Lewy 小体型認知症	14
		血管性認知症	20
	7	良性発作性頭位性眩暈症・Meniere 病	14
		てんかん（特発性・症候性）	111
	8	起立性低血圧	25
アレルギー	2	アナフィラキシー	51
膠原病及び類縁疾患	1	関節リウマチ	128
		結晶性関節炎（痛風・偽痛風）	157
	2	全身性エリテマトーデス<SLE>	100
感染症	1	インフルエンザ	152
		帯状疱疹	30
		ノロウイルス感染症	27
	2	クラミジア・トラコマティス感染症（性感染症）	8
		ブドウ球菌（黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌など）	81
		連鎖球菌（肺炎球菌、溶血性連鎖球菌など）感染症	18
	3	グラム陰性球菌（モラクセラ、淋菌、髄膜炎菌）感染症	51
		インフルエンザ菌感染症	13
		抗酸菌感染症（結核、非結核性抗酸菌症）	20
	4	カンジダ感染症	7
		アスペルギルス感染症	5
救急	1	心停止	121
	2	急性期脳梗塞	256
		脳出血	176
		くも膜下出血	87
		TIA	56
		てんかん発作	122
		気管支喘息発作	1,497
		急性心不全（慢性じん不全の急性増悪を含む）	533
		急性心筋梗塞	82
		不安定狭心症	160
	3	消化管出血	
		①胃・十二指腸潰瘍	222
		②虚血性大腸炎	32
		急性腹症	
		①急性虫垂炎	132
		その他の消化器疾患	
		①感染症腸炎	1,215
		②イレウス（麻痺性、術後性）	232
		その他	
		①胆石・胆のう炎	77
		②大腸憩室炎	95
		③肝性脳症	43
		感染症	704

		①急性腎盂腎炎	
		その他 ①尿管結石	269
		低血糖症	65
	4	熱中症	126
		偶発性低体温症	6
		急性医薬品中毒	107

※A レベルでの経験が要求される疾患のうち、比較的頻度が高く重要な疾患について、①退院時サマリー病名、②DPC 病名（主病名、入院契機病名、医療資源を最も投入した病名、医療資源を 2 番目に投入した病名を参考）、③救急室入院台帳などを、もとに、外来症例を加味して、おおよそ、実態に近いと考えられる症例数を算出したものです。ただし、同一患者が複数の病名を有していることが多く、同一患者が再入院することもあり、また外来診療が中心で入院病名として上がらない疾患もあり、一部は重複または一部は過小に算出されている可能性があります。また救急室に受診しても、入院しない症例、内科以外に入院する症例もあり、同一病名でも、同じ数字になっていないものもあります。以上をご理解の上、あくまで参考とお考え下さい。

追加資料１

連携施設、特別連携施設との関係

沖縄県立北部、八重山、宮古病院（連携）
歴史的に、沖縄県立中部病院は、北部、離島の中核病院である、県立北部、宮古、八重山病院（今回の連携病院）と深く連携してきました。当院で救急および総合内科的診療を重視した臨床研修（初期、後期）を行った後、後期 2-3 年目でこれらの地域中核病院に派遣することで、大きな戦力として第一線で診療する医師を養成してきました。また各病院には、当院出身の OB も数多く在籍しており、「specialist であるまえに良き generalist であれ」を共通の理念に、研修医の教育を行ってきました。また希望者には、消化器内科や循環器内科、腎臓内科での 1 年の専科研修を積み、総合内科的診療を行いながら、各施設の専科上級医の指導の下、subspecialist としての研修も行ってきました。研修医にとっても、より責任が重く、患者と近い関係で診療でき、これら連携施設での研修後は、指導する側も、研修医側も、成長を大きく実感できる内容です。今回各病院に連携施設として当プログラムに参加してもらうことで、従来われわれが、実践してきたことが、制度上も裏付けされた形となり、地域医療をますます充実させていくうえでも、今後とも続けて行きたいと強く考えております。中部病院での講義やカンファレンスを配信するシステムもあり、上記のような歴史的関係から、気軽に相談、指導できる体制が整えられております。

琉球大学病院（連携）
従来、初期研修で琉球大学と、中部病院を 1 年ずつたすき掛けで回るプログラムや琉大学生が、ポリクリやクリニカルクラークシップで、中部病院をローテーションしたり、琉球大学の卒業生から当院の研修医になる、または当院初期研修後琉球大学で専門研修を受けるなどの交流があり、また教育担当指導医間でお互いのプログラムについて話し合ったりという、良好な関係を構築してきました。今回新制度発足にあたり、さらにお互いを補完するような形で、研修の質を高めるために、基幹施設どうしの連携を組んで、お互いの研修プログラムをさらに充実したものにするため、連携病院となることになりました。お互いの施設でやや研修が不十分になる分野を中心に、最初は少人数短期（3-6 カ月通年で延べ 1 名）の形を想定しておりますが、今後状況に応じて充実させていきたいと思います。

南部医療センター（連携）
リウマチ内科、感染症内科を中心に診療連携がずっとあり、これを研修レベルにも発展的に拡げていく。

杏林大学医学部附属病院、宮崎市郡医師会病院、飯塚病院、手稲渓仁会病院、前橋赤十字病院
湘南鎌倉総合病院、白河厚生総合病院、九州大学病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、今村総合病院、熊本赤十字病院、豊田地域医療センター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研究会有明病院、聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属病院、ハートライフ病院、愛媛県立中央病院、埼玉医科大学総合医療センター（連携）内科各専科との連携を拡げていく。

離島診療所（特別連携）
上記のような歴史的背景から、当院での研修を希望する研修医には、general mind を強く持ち、離島診療所での勤務を希望する場合があります（全員ではありません）。このような研修医の要求にこたえるため、おおよそ 1000 人以上の人口がある離島診療所を特別連携施設として、加えたいと思います。これは上記連携施設での 1 年の枠とは別個に、研修医が希望し、かつ修了要件を充分満たすことが、確実である場合に option としてのプログラムになります。これら連携施設には当院 OB(自治医大またはプライマリー・ケア医コース：今後は総合診療専門研修プログラムに移行予

定）が在籍しており、インターネットを通じて、中部病院でのカンファレンスが配信されたり、また当院の地域科との密な連携を行ったりなど、歴史的に気軽に相談または指導するインフラが整えられております。外来診療、訪問診療、緊急例の搬送（ヘリコプターなど）などを経験できます。

追加資料２

離島僻地連携施設短期ローテーションの必要性についての理由書

歴史的に、沖縄県立中部病院内科プログラム（旧内科後期研修）は、へき地、離島の中核総合病院である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院との密な連携の下、質の高い内科後期研修を担保するとともに、これら地域中核病院の、貴重な人材の供給源としての機能をはたしてきました「追加資料1参照」。

その中で、以下の理由のため、最終年の１年間とは別枠で、専攻医１-２年目で1.5ヶ月程度の、へき地、離島中核病院での研修を行ってまいりました（合計１年と1.5カ月の連携施設勤務となります）。

目的

- 様々な内科疾患に対して、主治医として責任を持って対処、解決できる
- 離島、へき地医療の現状、中部病院との違いについて理解できる
- 自分の得意分野と不得意分野を自己評価できる
- 残りの専攻研修期間で、何を習得すべきかをリストできる
- 病院内スタッフと、チーム医療を実践できる
- 自分の将来の医師像と今後の進路について、考えることができる

これにより連携施設の実情をより早くから理解し、システムに慣れ、研修の質を上げ、最終年の１年の研修をより有意義にするためにこのような形をとっております。いままで伝統的に後期研修がそのようにして、成り立っており、離島へき地の地域医療の維持に必要な確立されたシステムになっています。また短期研修中の給与は中部病院から保証されており、別紙プログラムに記載した各病院施設概要のとおり、短期ではあっても研修医にとっても、地域中核病院にとっても有意義なシステムになっております。原則３年目は短期研修した連携施設での１年の研修となりますが、研修医、連携施設側の事情により、異なる連携施設になる場合がございますが、各連携施設とも県立の300床規模の、24時間オープンの救急室を擁する総合病院であるため、研修の内容に大差はございません)。

この点はもちろん、研修医採用の面接でも、あらかじめ説明したうえでの採用になります。
どうかご配慮おねがいします。